

2022年度 大学院国際文化研究科 シラバス

 西南学院大学大学院

講義科目一覧

東南アジア社会文化論特殊講義 I〔片山 隆裕〕	1
東南アジア社会文化論演習 I〔片山 隆裕〕	2
東南アジア社会文化論研究指導〔片山 隆裕〕	3
国際文化特別講義〔片山 隆裕〕	4
東アジア民族社会論特殊講義 I〔韓 景旭〕	5
東アジア民族社会論演習 I,II〔韓 景旭〕	6
東アジア民族社会論研究指導〔韓 景旭〕	7
国際文化特別講義〔韓 景旭〕	8
考古学方法論特殊講義 I〔伊藤 慎二〕	9
考古学方法論演習 II〔伊藤 慎二〕	10
考古学方法論研究指導 A〔伊藤 慎二〕	11
国際文化特別講義〔伊藤 慎二〕	12
日本近世近代社会論特殊講義 I〔宮崎 克則〕	13
日本近世近代社会論演習 I〔宮崎 克則〕	14
日本近世近代社会論研究指導〔宮崎 克則〕	15
国際文化特別講義〔宮崎 克則〕	16
中国民族文化論特殊講義 II〔金縄 初美〕	17
中国民族文化論演習 I〔金縄 初美〕	18
国際文化特別講義〔金縄 初美〕	19
日本文化論特殊講義 II〔西村 将洋〕	20
日本文化論演習 I〔西村 将洋〕	21
アジア社会文化論研究実習〔西村 将洋〕	22
国際文化特別講義〔西村 将洋〕	23
日本文化史論特殊講義 II〔尹 芝恵〕	24
日本文化史演習 I〔尹 芝恵〕	25
中国近現代文化論特殊講義 II〔新谷 秀明〕	26
中国近現代文化論演習 I〔新谷 秀明〕	27
中国近現代文化論研究指導〔新谷 秀明〕	28
中国近現代文化論論文作成指導〔新谷 秀明〕	29
国際文化特別講義〔新谷 秀明〕	30
イタリア・地中海文化論特殊講義 I〔山田 順〕	31
イタリア・地中海文化論特殊講義 II〔山田 順〕	32

イタリア・地中海文化論演習 I〔山田 順〕	33
美学・芸術学特殊講義 II〔柿木 伸之〕	34
美学・芸術学演習 I〔柿木 伸之〕	35
表象文化論特殊講義〔松原 知生〕	36
表象文化論演習〔松原 知生〕	37
欧米社会文化論研究実習〔松原 知生〕	38
表象文化論研究指導〔松原 知生〕	39
表象文化論論文作成指導〔松原 知生〕	40
国際文化特別講義〔松原 知生〕	41
表象メディア論特殊講義 II〔栗原 詩子〕	42
表象メディア論演習 II〔栗原 詩子〕	43
欧米社会文化論研究実習〔栗原 詩子〕	44
国際文化特別講義〔栗原 詩子〕	45
近代アメリカ論特殊講義 II〔朝立 康太郎〕	46
近代アメリカ論演習 I〔朝立 康太郎〕	47
近代キリスト教文化史論特殊講義〔塩野 和夫〕	48
近代キリスト教文化史論演習〔塩野 和夫〕	49
近代キリスト教文化史論研究指導〔塩野 和夫〕	50
国際文化特別講義〔塩野 和夫〕	51
キリスト教思想論特殊講義 II〔宮平 望〕	52
キリスト教思想論演習 II〔宮平 望〕	53
キリスト教思想論研究指導〔宮平 望〕	54
国際文化特別講義〔宮平 望〕	55
古代キリスト教文化論特殊講義 I〔西脇 純〕	56
古代キリスト教文化論特殊講義 II〔西脇 純〕	57
アメリカ社会文化論特殊講義 I〔大原関 一浩〕	58
近現代中国歴史文化論特殊講義 I〔梅村 卓〕	59

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	東南アジア社会文化論特殊講義 I	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	片山 隆裕			
【講義の到達目標及びテーマ】				
講義テーマ: 近現代における東南アジア / 講義の到達目標: 近現代東アジアの歴史・社会・文化についての理解を深める				
【講義概要】				
近現代における東南アジアの諸問題についての論文を毎週1本読み、それに関する受講者の報告に基づいて、東南アジアの歴史・社会・文化について議論を深める。受講者は、予め担当テキストを精読してレジュメを作成するとともに、テキストに含まれている主要テーマに関する資料を収集し、報告を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	東南アジア史の概要(片山講義)			
2	東南アジアの社会と文化の諸特性(片山講義)			
3	タイ仏教の諸特性(受講生発表)			
4	現代タイにおける社会開発の功罪(受講生発表)			
5	現代タイにおける観光開発の功罪(受講生発表)			
6	現代タイにおける山岳少数民族の国民統合問題(受講生発表)			
7	冷戦期タイにおける中国国民党と山岳少数民族(受講生発表)			
8	映画でみるタイの社会と文化(1)			
9	映画でみるタイの社会と文化(2)			
10	植民地主義と東南アジア(1)ーフランス領インドシナ(受講生発表)			
11	植民地主義と東南アジア(2)ーマレーシア、シンガポール、ビルマ(受講生発表)			
12	植民地主義と東南アジア(3)ーインドネシア(受講生発表)			
13	アジア太平洋戦争期における東南アジアと日本(1)ーマレー作戦とシンガポール戦争(片山講義)			
14	アジア太平洋戦争期における東南アジアと日本(2)ー泰緬鉄道(片山講義)			
【テキスト】				
上記各テーマに関する『電子版東南アジア研究』(京都大学東南アジア研究センター)収録の諸論文等を読む。				
【参考書・参考資料等】				
片山隆裕 『アジアから観る、考えるー文化人類学入門』 ナカニシヤ出版 2008年、また、必要に応じて、プリント資料を配布する。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前学習として、受講者は毎週学習するテーマについて事前に基本的な予備知識を得ておくこと(1.5時間程度)。事後学習としては、各週の当該テーマに関連する書籍・論文などを読み、理解を深めること(1.5時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
近現代の東南アジアに関して学習したテーマに関して、レポートを作成して提出する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
各週に学習したテーマに関して、そのテーマが現代東南アジアとどのような関わりがあるかについて調べること。				
【成績評価方法・基準】				
授業中の報告(25%×2回)、授業中に観賞した東南アジアの映画についてのレポート(25%)、授業への積極的関与度(25%)				
【履修上の注意】				
特になし。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	東南アジア社会文化論演習 I	通年・前期・後期		単位数	使用言語
		通年		4	日本語
担当教員名	片山 隆裕				
【講義の到達目標及びテーマ】					
現代東南アジアの諸課題および東南アジアにおける戦争についての理解を深める。文献資料の収集方法、フィールドワークの方法などについても学び、修士論文作成に資することを目標とする。					
【講義概要】					
前期の前半は修士論文の書き方について理解するために、資料集の方法や思考の「組み立て方、論理展開の仕方など」についての理解を深める。また、前期の後半は、現代東南アジアにおける諸課題および東南アジアにおける戦争に関する理解を深める。後期は、東南アジアの映画を觀賞しながら、映画にかかれたテーマに関する東南アジアの歴史的・社会文化的背景についての知見を深める。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	授業の導入、受講者の相互理解	片山	15	はじめに一映画による社会文化分析の方法	片山
2	修士論文の書き方(1)ー修士論文とは何か	片山	16	東南アジアの映画觀賞(1)ータイの歴史	片山
3	修士論文の書き方(2)ー先行研究と資料収集	片山	17	上記映画の歴史・社会・文化的背景	片山
4	修士論文の書き方(3)ーフィールドワークの方法	片山	18	東南アジアの映画觀賞(2)ー戦争期のタイ	片山
5	修士論文の書き方(4)ー脚注と参考文献	片山	19	上記映画の歴史・社会・文化的背景	片山
6	修士論文の書き方(5)ー思考の組み立てかた	片山	20	東南アジアの映画觀賞(3)ータイの仏教	片山
7	東南アジアの現代的課題(総論)	片山	21	上記映画の歴史・社会・文化的背景	片山
8	東南アジアの現代的課題(1)ー開発と文化	片山	22	東南アジアの映画觀賞(4)ーベトナム戦争	片山
9	東南アジアの現代的課題(2)ーエイズ問題	片山	23	上記映画の歴史・社会・文化的背景	片山
10	東南アジアの現代的課題(3)ーグローバリゼーション	片山	24	東南アジアの映画觀賞(5)ーカンボジア内戦	片山
11	東南アジアと戦争(1)ーマレー半島上陸作戦	片山	25	上記映画の歴史・社会・文化的背景	片山
12	東南アジアと戦争(2)ーシンガポールの戦い	片山	26	東南アジアの映画觀賞(6)ー戦争と東南アジア	片山
13	東南アジアと戦争(3)ー泰緬鉄道の建設	片山	27	上記映画の歴史・社会・文化的背景	片山
14	東南アジアと戦争(4)ー東南アジア諸国の独立	片山	28	前期／後期の授業の総まとめ	片山
【テキスト】					
特定のテキストは使用しない。必要に応じて、適宜、プリント資料、画像／映像資料などを配布・提示する。					
【参考書・参考資料等】					
片山隆裕(編著)『アジアから観る、考えるー文化人類学入門』ナカニシヤ出版 2008年／中島和男・片山隆裕(編著)『戦争を歩く、戦争を記憶する』朝日出版社 2019年					
【事前・事後学習、時間等】					
各週のテーマに関して、自分で調べて事前に予備知識を得ておく(1.5時間程度)。事後学習として、当該週に学習した内容を、文献等によって確認する。					
【課題の種類・内容】					
現代東南アジアにおける課題についてテーマを設定して、レポートを作成して提出する。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
各週に学習したテーマに関して、現代東南アジアとどのような関わりがあるかについて調べる。					
【成績評価方法・基準】					
授業中の発表(20%×前期1回、後期1回)、觀賞した映画に関するコメント(5パーセント×6本)、授業への積極的参加態度(30%)					
【履修上の注意】					
特になし。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	東南アジア社会文化論研究指導		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	片山 隆裕				
【講義の到達目標及びテーマ】					
東南アジアの社会と文化に関する多様な資料収集の方法を学び、博士論文作成に活かすとともに、研究者としての基礎的素養を身につけることを到達目標とする。講義のテーマは「資料収集と論文作成」					
【講義概要】					
東南アジアに関する研究資料の収集方法(文献資料の収集、図書・公文書館の利用、フィールドワークの方法等)について学び、それらの資料を材料として研究論文を作成する仕方を学ぶ。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	研究論文とはどのようなものか・	片山	15	研究論文の作成(1)―「はじめに」の書き方	片山
2	資料収集の方法(1)―統計資料の収集	片山	16	研究論文の作成(2)―「先行研究」のまとめ方	片山
3	資料収集の方法(2)―公的機関での資料収集	片山	17	研究論文の作成(3)―研究課題の歴史的背景	片山
4	資料収集の方法(3)―インターネットの利用法	片山	18	研究論文の作成(4)―論文の論理構成	片山
5	資料収集の方法(4)―アンケート調査の方法	片山	19	研究論文の作成(5)―結論と参考文献	片山
6	資料収集の方法(5)―インタビュー調査の方法	片山	20	受講者の研究論文指導(1)	片山
7	資料収集の方法(6)―参与観察法	片山	21	受講者の研究論文指導(2)	片山
8	資料収集の実際(1)―村落社会でのフィールドワーク	片山	22	受講者の研究論文指導(3)	片山
9	資料収集の実際(2)―都市でのフィールドワーク	片山	23	受講者の研究論文指導(4)	片山
10	資料収集の実際(3)―フィールドワークの実践	片山	24	研究発表の方法(1)―学会発表の仕方	片山
11	収集した資料の活用(1)―資料的価値の見極め	片山	25	研究発表の方法(2)―学会誌への投稿	片山
12	収集した資料の活用(2)―KJ法	片山	26	研究の応用(1)―本の執筆(単著)	片山
13	収集した資料の活用(3)―論文の構成の仕方	片山	27	研究の応用(2)―本の執筆(共著)	片山
14	収集した資料の活用(4)―結論の導き方	片山	28	研究の応用(3)―本の執筆(編著)	片山
【テキスト】					
特定のテキストは使用しない。適宜、必要な資料を提示・配布する。					
【参考書・参考資料等】					
研究指導をしながら、受講者の研究論文のテーマに活用できる参考書・参考資料等を提示する。					
【事前・事後学習、時間等】					
各週のテーマについて各自で予備的学習を行って授業に臨む(2時間程度)。各週のテーマについて額数したことを簡潔にまとめておく。					
【課題の種類・内容】					
受講者各自の研究テーマに関する論文を作成する。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
研究論文を作成して、学会・研究会等で発表するとともに、学会誌へ投稿する。					
【成績評価方法・基準】					
受講者各自が作成した研究論文により評価する。					
【履修上の注意】					
特になし。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	片山 隆裕			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(東南アジアの社会と文化)の最新の動向を踏まえ、必要となる研究法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。また、研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるために、国際文化研究(東南アジアの社会と文化)に必要な学修課題に取り組み、習得した知識を自分自身の具体的な研究テーマに関連づけ、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における基礎的概念の整理			
2	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における基礎的概念の応用			
3	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)と歴史的背景と意義			
4	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)の周辺領域との関係			
5	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における国内の動向			
6	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における海外の動向			
7	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における研究者の役割と研究倫理			
8	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における成果と課題			
9	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における最新の研究事例(1)ータイの社会と文化			
10	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における最新の研究事例(2)ータイと日本の関係			
11	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における最新の研究事例(3)ーアジア太平洋戦争期のタイ			
12	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)関連の学術雑誌への投稿とガイドラインの順守			
13	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)における自律的学習者としての研究者の在り方			
14	国際文化研究(東南アジアの社会と文化)の将来像と今後の課題			
【テキスト】				
電子版『東南アジア研究』(京都大学東南アジア研究センター)				
【参考書・参考資料等】				
信田敏宏ほか(編)『東南アジアの文化事典』丸善出版 2019年 ほか				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。(1.5時間程度)				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課すことがある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の発言・コメントに対して随時感想と注意点を明確にするとともに、レポート及び口頭発表に対して建設的なコメントを行う。				
【成績評価方法・基準】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中における意見・コメント: 50% ・学期末レポート: 50% 				
【履修上の注意】				
普段より、常に本授業のテーマに関心を持ち、学習意欲を高めてもらいたい。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	東アジア民族社会論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	韓景旭			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義では、原書講読を通じて中国と朝鮮半島の文化交流の歴史について学ぶ。				
【講義概要】				
中国と韓国・朝鮮の文化交流の歴史は、古代から近・現代に至るまで連綿と続いてきた。その交流の内容は、政治制度や法律、哲学、宗教、教育、文学、言語、芸術、図書、科学技術、儀礼習俗など多岐にわたっている。本講義では、中国崑崙出版社から出された著書シリーズ『中国—朝鮮・韓国文化交流誌 (I～IV)』を手がかりに、古代における中国と韓国・朝鮮の文化交流の歴史について学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	政治制度			
2	法律			
3	教育(科挙)			
4	儒家思想			
5	仏教と道教			
6	文字と言語			
7	詩と小説			
8	科学技術			
9	音楽			
10	絵画			
11	書道			
12	儀礼			
13	天文暦法			
14	総括			
【テキスト】				
楊昭全『中国—朝鮮・韓国文化交流史』(崑崙出版社、2004年)、吉田光男編『日韓中の交流 ひと・モノ・文化』(山川出版社、2004年)				
【参考書・参考資料等】				
授業中に配布する。				
【事前・事後学習、時間等】				
中国もしくは韓国に留学し、一定の中国語もしくは韓国語能力を有すること。なお、授業中に紹介する中国語・韓国語文献に関しては事前学習が必要である。				
【課題の種類・内容】				
受講者は文献を翻訳し、輪番で中間発表を行う。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
月1回のペースで課題発表を行い、みんなで討論する。				
【成績評価方法・基準】				
成績は、レポート(もしくは文献翻訳)、授業への取り組み(質問や発言の内容、講義に対する理解度など)、受講態度(欠席や居眠りの有無)に基づいて総合評価する。内訳は、レポート(40%)、授業への取り組み(30%)、受講態度(30%)とする。				
【履修上の注意】				
発表者は、授業参加者全員分のレジユメを用意し、無断欠席をしないこと。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	東アジア民族社会論演習Ⅰ,Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	韓 景旭			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本演習の目的は、韓国・朝鮮民族、とくに中国朝鮮族の社会と文化を文化人類学の立場から研究することである。				
【講義概要】				
世界には凡そ8000万人の韓国・朝鮮系の人びとが生活しており、そのうち、約800万人がさまざまな理由により朝鮮半島以外の地域に移住して暮らしている。本演習では、「民族」「文化」「少数民族」「移民」「ネットワーク」「エスニシティ」などの概念について学ぶとともに、中国を生活の拠点としている朝鮮族の歴史や文化、異民族との関係、エスニックアイデンティティ、国際社会における役割などについて学ぶ。全体的な授業計画はおよそ以下のとおりである。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	民族と文化	15	朝鮮族の食文化	
2	少数民族	16	朝鮮族の言語	
3	中国の少数民族	17	朝鮮族の宗教	
4	世界のコリアン	18	朝鮮族の祖先祭祀	
5	中国の朝鮮族	19	朝鮮族の服飾	
6	朝鮮族の移住史	20	朝鮮族の年中行事	
7	コリアン・ネットワーク	21	朝鮮族の居住文化	
8	在日韓国・朝鮮人	22	朝鮮族の出稼ぎ	
9	ロシアの「高麗人」	23	朝鮮族のアイデンティティ	
10	コリアンアメリカン	24	朝鮮族の教育	
11	中国における北朝鮮人	25	朝鮮族と漢族	
12	脱北者の過去と現在	26	朝鮮族と韓国人	
13	日本における北朝鮮人	27	朝鮮族と北朝鮮人	
14	総括	28	総括	
【テキスト】				
韓景旭『韓国・朝鮮系中国人＝朝鮮族』（中国書店、2001年）高崎宗司『中国朝鮮族』（明石書店、1996年）鶴嶋雪嶺『中国朝鮮族の研究』（関西大学出版、1997年）				
【参考書・参考資料等】				
授業中に指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
1年間以上の中国・韓国留学、もしくは同等の中国語・韓国語能力を有することが望ましい。授業中に紹介する中国語・韓国語文献については事前学習が必要である。授業中の使用言語は主に日本語である。				
【課題の種類・内容】				
受講者は早い段階で研究課題を決め、修士論文のテーマに沿って文献を収集する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
月1回のペースで課題発表を行い、みんなで討論する。				
【成績評価方法・基準】				
成績は、レポート（もしくは文献翻訳）、授業への取り組み（質問や発言の内容、講義内容についての理解など）、受講態度（欠席や居眠りの有無）によって総合評価する。内訳は、レポート（40%）・授業への取り組み（30%）・受講態度（30%）とする。				
【履修上の注意】				
発表者は、受講者全員分のレジュメを事前に用意し、無断欠席をしないこと。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	東アジア民族社会論研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	韓景旭			
【講義の到達目標及びテーマ】				
朝鮮半島の歴史と文化、そしてフィールドワークの方法に関する専門知識を身に付け、それらを基に実地調査及び論文作成を行う。				
【講義概要】				
朝鮮半島及び中国朝鮮族の歴史と文化をひも解きながら、論文の作成方法について指導を行う。博士前期課程での研究成果を基に、さらなる研究を積み重ねていく。受講者はフィールドワークを定期的に行い、独自性のある研究論文を作成し、学術誌への掲載を目指す。また、関連分野の優秀論文を参考にしながら、博士学位論文の書き方について学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	東アジアの民族と文化の形成(遊牧民族の発生)	15	フィールドワークとは	
2	東アジアの民族と文化の形成(農耕民族の発生)	16	フィールドワークの意義と方法	
3	東アジアの民族と文化の形成(言語と宗教)	17	フィールドワークの課題と対象	
4	「古朝鮮」とは	18	フィールドワークの計画	
5	朝鮮半島における「三国時代」	19	予備調査	
6	統一新羅	20	本調査	
7	高麗王朝	21	質問紙調査の方法	
8	李氏朝鮮	22	調査結果の整理と分析	
9	朝鮮半島から大陸部への民族移動	23	調査資料の整理	
10	朝鮮半島から日本への民族移動	24	調査日記とフィールドノート	
11	「日韓併合」	25	パーソナル・ドキュメント	
12	朝鮮半島における民族独立運動	26	参与観察の方法	
13	朝鮮戦争	27	調査レポートと論文の執筆	
14	分断国家の過去と現在	28	追跡調査と調査の新展開	
【テキスト】				
授業中に紹介する。				
【参考書・参考資料等】				
授業中に紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
受講者は各自の研究テーマに即して資料を収集し、前期と後期にそれぞれ2回ずつ中間発表を行う。また、一回目の報告時に指摘された箇所について修正を行い、2回目の報告時にそれらについて確認する。				
【課題の種類・内容】				
受講者は各自の研究テーマに即して資料収集と実地調査を行い、前期と後期にそれぞれ2回ずつ報告を行う。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎回の報告時に指摘された箇所を修正し、それらを翌週の授業時に持参して確認する。				
【成績評価方法・基準】				
4回の研究報告(毎回25%)に基づいて評価する。				
【履修上の注意】				
2か月毎に、研究状況についてメール報告をすること。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	韓景旭			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究の最新の動向を踏まえ、必要となる調査・研究法に関する知識・技能の習得を目的とする。そして研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるため、必要となる学修課題に取り組み、習得した知識を自分自身の具体的な研究法に結びつけ、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(東アジア民族社会論)における基礎的概念の整理			
2	国際文化研究(東アジア民族社会論)における基礎的概念の応用			
3	国際文化研究と周辺領域の関係			
4	国際文化研究の最新動向			
5	国際文化研究における最新の研究事例			
6	国際文化研究における研究者の役割と研究倫理			
7	学術雑誌への投稿とガイドラインの順守			
8	自律的学習者としての研究者の在り方			
9	国際文化研究における新たな研究法の検討			
10	フィールドワークと参与観察			
11	質問紙調査の実施方法			
12	調査日記とフィールドノート			
13	予備調査・本調査・追跡調査			
14	学位論文の執筆と今後の課題			
【テキスト】				
授業中に適宜紹介する				
【参考書・参考資料等】				
授業中に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。(1.5時間程度)				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の意見、発表に対して随時感想と注意点を明確にし、レポート及び口頭発表に対して建設的なコメントをする。				
【成績評価方法・基準】				
・口頭発表:50% ・レポート:50%				
【履修上の注意】				
毎月一回、研究状況についてメール報告すること。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	考古学方法論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		前期		
担当教員名	伊藤 慎二			
【講義の到達目標及びテーマ】				
東アジアを中心とする地域の文化交流に関する考古学的研究方法を学ぶ。				
【講義概要】				
考古学の学術論文を講読し、研究史と現状、最新の論点を批判的に検証する。おもに日本とその周辺のアジア・太平洋地域の考古学を対象とするが、必要に応じて欧米の研究も対象とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義計画の概要			
2	受講者の研究課題取組状況紹介			
3	考古学の方法論的課題の検討(型式学・分布論、その他理論)1:型式学			
4	考古学の方法論的課題の検討(型式学・分布論、その他理論)2:分布論			
5	考古学の方法論的課題の検討(型式学・分布論、その他理論)3:その他理論			
6	考古学と現代社会に関する諸問題の検討1:文化			
7	考古学と現代社会に関する諸問題の検討2:社会			
8	考古学と現代社会に関する諸問題の検討3:政治			
9	考古学と現代社会に関する諸問題の検討4:国際関係			
10	文化交流と社会に関する考古学的諸課題の検討1:旧石器・縄文			
11	文化交流と社会に関する考古学的諸課題の検討2:弥生・古墳・古代			
12	文化交流と社会に関する考古学的諸課題の検討3:中近世			
13	文化交流と社会に関する考古学的諸課題の検討4:近現代			
14	総括			
【テキスト】				
特になし。その都度事前配布・指示する。おもに日本語と英語の論文を扱う。				
【参考書・参考資料等】				
日本:『考古学研究』『考古学雑誌』『日本考古学』『古文化談叢』『南島考古』『北海道考古学』など 中国:『考古』『文物』『考古学報』など 台湾:『考古・人類学刊』など 韓国:『先史와 古代』『嶺南考古学』など 朝鮮:『조선고고연구』など ロシア:『Археология, этнография и антропология Евразии』『Российская Археология』など オセアニア・東南アジア:『Bulletin of the Indo-Pacific Prehistory Association』『Journal of the Polynesian Society』『Asian Perspectives』『Archaeology in Oceania』				
【事前・事後学習、時間等】				
関連研究論文に広く目を通し、各研究課題の研究史的背景や最新論点を把握することに努める。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
受講者発表、レポート				
【履修上の注意】				
日本考古学の基礎的用語に関する一定の知識を有する者が受講可能。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	考古学方法論演習Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	伊藤 慎二				
【講義の到達目標及びテーマ】					
東アジアを中心とする地域の文化交流に関する考古学的研究の実践					
【講義概要】					
おもに日本とその周辺のアジア・太平洋地域における文化交流の考古学に関する学術論文作成のための諸課題の検討と実践を行う。一年間の演習を経て、各自の課題に応じた考古学に関する実際の学術研究論文作成を目指す。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	講義計画の概要		15	分析結果の検討1:先史	
2	受講者の研究課題取組状況紹介1:先史		16	分析結果の検討2:原史	
3	受講者の研究課題取組状況紹介2:原史		17	分析結果の検討3:歴史	
4	受講者の研究課題取組状況紹介3:歴史		18	分析結果の検討4:その他	
5	研究史と基礎的学説の検討1:先史		19	分析結果の検討5:補足	
6	研究史と基礎的学説の検討2:原史		20	比較研究1:先史	
7	研究史と基礎的学説の検討3:歴史		21	比較研究2:原史	
8	研究史と基礎的学説の検討4:その他		22	比較研究3:その他	
9	方法論的課題の検討1:先史		23	論点の整理1:先史～歴史	
10	方法論的課題の検討2:原史		24	論点の整理2:その他	
11	方法論的課題の検討3:歴史		25	考察の検討1:先史	
12	方法論的課題の検討4:その他		26	考察の検討2:原史	
13	中間総括1:先史		27	考察の検討3:歴史・その他	
14	中間総括2:原史・その他		28	総括	
【テキスト】					
特になし。					
【参考書・参考資料等】					
適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
学内外の類似研究取組に広く多く積極的に学ぶことがとても重要。					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
受講者発表、レポート					
【履修上の注意】					
考古学に関する専門的知識を一定程度有し、考古学に関連する論文作成予定者を受講対象とする。受講者の研究課題等に応じて講義内容は適宜調整変更する。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	考古学方法論研究指導A	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語	
担当教員名	伊藤慎二				
【講義の到達目標及びテーマ】					
先史・原史・歴史考古学に関する調査研究の実践と論文作成					
【講義概要】					
おもに日本とその周辺のアジア・太平洋地域における先史・原史・歴史考古学に関する学術論文作成のための諸課題の検討と実践を行い、各自の研究課題に応じた考古学に関する実際の学術研究論文作成を目指す。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	講義計画の概要		15	分析結果の検討1:先史	
2	受講者の研究課題取組状況紹介1:先史		16	分析結果の検討2:原史	
3	受講者の研究課題取組状況紹介2:原史		17	分析結果の検討3:歴史	
4	受講者の研究課題取組状況紹介3:歴史		18	分析結果の検討4:その他	
5	研究史と基礎的学説の検討1:先史		19	分析結果の検討5:補足	
6	研究史と基礎的学説の検討2:原史		20	比較研究1:先史	
7	研究史と基礎的学説の検討3:歴史		21	比較研究2:原史・歴史	
8	研究史と基礎的学説の検討4:その他		22	比較研究3:その他	
9	方法論的課題の検討1:先史		23	論点の整理1:先史～歴史	
10	方法論的課題の検討2:原史		24	論点の整理2:その他	
11	方法論的課題の検討3:歴史		25	考察の検討1:先史	
12	方法論的課題の検討4:その他		26	考察の検討2:原史	
13	中間総括1:先史		27	考察の検討3:歴史・その他	
14	中間総括2:原史・その他		28	総括	
【テキスト】					
特になし。					
【参考書・参考資料等】					
適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
学内外の類似研究取組に広く多く積極的に学ぶことがとても重要。					
【課題の種類・内容】					
発表要旨、論文作成等。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
対面等での指導。					
【成績評価方法・基準】					
発表・課題内容に基づく。					
【履修上の注意】					
考古学に関する専門的知識を一定程度有し、考古学に関連する論文作成予定者を受講対象とする。受講者の研究課題等に応じて講義内容は適宜調整変更する。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
			2	日本語
担当教員名	伊藤 慎二			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(考古学)の最新の動向を踏まえ、必要となる研究方法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。そして、研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるため、必要となる学修課題に取り組み、習得した知識を自分自身の具体的な研究方法に結び付け、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(考古学)における基礎的概念の整理			
2	国際文化研究(考古学)における基礎的概念の応用			
3	国際文化研究(考古学)における歴史的背景と意義1			
4	国際文化研究(考古学)における歴史的背景と意義2			
5	国際文化研究(考古学)における国内の動向			
6	国際文化研究(考古学)における海外の動向			
7	国際文化研究(考古学)における研究者の役割			
8	国際文化研究(考古学)における研究者の倫理			
9	国際文化研究(考古学)における成果と課題1			
10	国際文化研究(考古学)における成果と課題2			
11	国際文化研究(考古学)における新たな研究方法の検討1			
12	国際文化研究(考古学)における新たな研究方法の検討2			
13	国際文化研究(考古学)における将来像1			
14	国際文化研究(考古学)における将来像2			
【テキスト】				
特に無し。				
【参考書・参考資料等】				
講義の際に、関連文献を紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
講義の際に、紹介した文献や発表に際しての指摘事項を踏まえ、その都度広く研究内容を再点検する。				
【課題の種類・内容】				
発表・発表要旨の作成、小論文作成等。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義の際に、適宜コメントを行う。				
【成績評価方法・基準】				
発表・発表要旨・課題論文作成70% 出席30%				
【履修上の注意】				
特に無し。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科国際文化専攻

講義科目名	日本近世近代社会論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		前期		
担当教員名	宮崎克則			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1.17～19世紀における民衆社会の再構成 2.17～19世紀における対外関係の再構成				
【講義概要】				
江戸時代以来の民衆社会と対外関係に関する具体的記録をもとに、その歴史像を再構成する。具体的には古文書をテキストに、これを読み解き、討議を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション			
2	江戸前期 民衆史料の講読と講義1 走り者の記録			
3	江戸前期 民衆史料の講読と講義2 走り者の記録			
4	江戸前期 民衆史料の講読と講義3 キリシタンの記録			
5	江戸前期 民衆史料の講読と講義4 キリシタンの記録			
6	江戸中期 民衆史料の講読と講義5 一揆の記録			
7	江戸中期 民衆史料の講読と講義6 一揆の記録			
8	江戸中後期 対外関係史料の講読と講義1 宗家文書			
9	江戸中後期 対外関係史料の講読と講義2 宗家文書			
10	江戸中後期 対外関係史料の講読と講義3 長崎関係史料			
11	江戸中後期 対外関係史料の講読と講義4 長崎関係史料			
12	江戸中後期 対外関係史料の講読と講義5 琉球関係史料			
13	江戸中後期 対外関係史料の講読と講義6 琉球関係史料			
14	まとめ			
【テキスト】				
配布する				
【参考書・参考資料等】				
くずし字用例事典 東京堂出版				
【事前・事後学習、時間等】				
講義の中で指示する				
【課題の種類・内容】				
古文書の講読と講義				
【課題に対するフィードバックの方法】				
質問への対応はメールを通して行う				
【成績評価方法・基準】				
平素の成績、出席状況、先行研究に対する新たな見解の提示を重視する				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科国際文化専攻

講義科目名	日本近世近代社会論演習Ⅰ		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	宮崎克則				
【講義の到達目標及びテーマ】					
江戸時代から明治期を対象に、日本の文化・社会について具体的な記録を読み解き、歴史像を再構成する					
【講義概要】					
1. 17世紀～19世紀における歴史像の再構成 2. 江戸時代以来の古文書についての読解力 3. 古文書以外の資料(絵画)の活用					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション	宮崎克則	15	オリエンテーション	宮崎克則
2	江戸前期 大名権力史料の講読1 将軍の記録	宮崎克則	16	江戸中期 庄屋機構の講義と演習1 唐津藩	宮崎克則
3	江戸前期 大名権力史料の講読2 大名の記録	宮崎克則	17	江戸中期 庄屋機構の講義と演習2 福岡藩	宮崎克則
4	江戸前期 大名権力史料の講読3 黒田氏の記録	宮崎克則	18	江戸中期 庄屋機構の講義と演習3 久留米藩	宮崎克則
5	江戸前期 大名権力史料の講読4 鍋島氏の記録	宮崎克則	19	江戸中期 庄屋機構の講義と演習4 熊本藩	宮崎克則
6	江戸前期 大名権力史料の講読5 細川氏の記録	宮崎克則	20	江戸中期 庄屋機構の講義と演習5 柳川藩	宮崎克則
7	江戸前期 大名権力史料の講読6 島津氏の記録	宮崎克則	21	江戸中期 庄屋機構の講義と演習6 島原藩	宮崎克則
8	江戸後期 海外情報史料の講読1 ケンペル	宮崎克則	22	江戸中期 庄屋機構の講義と演習7 平戸藩	宮崎克則
9	江戸後期 海外情報史料の講読2 ツェンペリー	宮崎克則	23	江戸後期 絵画史料の講義と演習1 浮世絵	宮崎克則
10	江戸後期 海外情報史料の講読3 フィッセル	宮崎克則	24	江戸後期 絵画史料の講義と演習2 石版画	宮崎克則
11	江戸後期 海外情報史料の講読4 ブロムホフ	宮崎克則	25	江戸後期 絵画史料の講義と演習3 洋画	宮崎克則
12	江戸後期 海外情報史料の講読5 シーボルト	宮崎克則	26	江戸後期 絵画史料の講義と演習4 画工	宮崎克則
13	江戸後期 海外情報史料の講読6 ビュルガー	宮崎克則	27	江戸後期 絵画史料の講義と演習5 版元	宮崎克則
14	江戸後期 海外情報史料の講読7 フィレニューフェ	宮崎克則	28	江戸後期 絵画史料の講義と演習6 製本	宮崎克則
【テキスト】					
授業の中で指示する					
【参考書・参考資料等】					
くずし字用例辞典 東京堂出版					
【事前・事後学習、時間等】					
授業の中で指示する					
【課題の種類・内容】					
古文書の講読と解釈					
【課題に対するフィードバックの方法】					
質問への回答はメールで対応する					
【成績評価方法・基準】					
これまでの研究を踏まえ、新たな方向性の提示ができるかどうかを重視して評価する					
【履修上の注意】					
特になし					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科国際文化専攻

講義科目名	日本近世近代社会研究指導	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語	
担当教員名	宮崎克則				
【講義の到達目標及びテーマ】					
日本史に関する研究論文の作成と学術雑誌への投稿					
【講義概要】					
江戸前期、江戸中期、江戸後期、明治期における歴史史料を読み解くとともに、日本史・交流史に関する歴史像を再構成するための討議、演習形式の発表を実施する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション	宮崎克則	15	博士論文の書き方 1 論旨	宮崎克則
2	江戸前期 大名権力史料 1 徳川氏	宮崎克則	16	博士論文の書き方 2 組み立て	宮崎克則
3	江戸前期 大名権力史料 2 黒田氏	宮崎克則	17	博士論文の書き方 3 先行研究	宮崎克則
4	江戸前期 大名権力史料 3 細川氏	宮崎克則	18	博士論文の書き方 4 引用文献	宮崎克則
5	江戸中期 庄屋史料 1 唐津藩	宮崎克則	19	博士論文の書き方 5 課題設定	宮崎克則
6	江戸中期 庄屋史料 2 福岡藩	宮崎克則	20	博士論文の相互批判1 論旨	宮崎克則
7	江戸中期 庄屋史料 3 久留米藩	宮崎克則	21	博士論文の相互批判2 組み立て	宮崎克則
8	江戸後期 海外情報史料 1 オランダ商館	宮崎克則	22	博士論文の相互批判3 先行研究	宮崎克則
9	江戸後期 海外情報史料 2 オランダ風説書	宮崎克則	23	博士論文の相互批判4 引用文献	宮崎克則
10	江戸後期 海外情報史料 3 唐風説書	宮崎克則	24	博士論文の相互批判5 課題設定	宮崎克則
11	江戸後期 絵画史料 1 浮世絵	宮崎克則	25	日本史研究の歴史	宮崎克則
12	江戸後期 絵画史料 2 石版画	宮崎克則	26	日本史研究の現状-国内-	宮崎克則
13	明治期 政治史料 1 自由民権史料	宮崎克則	27	日本史研究の現状-海外-	宮崎克則
14	明治期 政治史料 2 太政官史料	宮崎克則	28	まとめ	宮崎克則
【テキスト】					
くずし字用例辞典 東京堂出版					
【参考書・参考資料等】					
授業の中で指示する					
【事前・事後学習、時間等】					
授業の中で指示する					
【課題の種類・内容】					
古文書の講読と解釈					
【課題に対するフィードバックの方法】					
質問への対応はメールで行う					
【成績評価方法・基準】					
これまでの研究を踏まえ、新たな方向性の提示ができるかどうかを重視して評価する。平素の成績、出席状況					
【履修上の注意】					
特になし					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	宮崎克則			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(日本史)の最新の動向を踏まえ、必要となる研究法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。そして、研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるため、必要となる学修課題に取り組み、習得した知識を自分自身の具体的な研究法に結び付け、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(日本史)における基礎的概念の整理			
2	国際文化研究(日本史)における基礎的概念の応用			
3	国際文化研究(日本史)における歴史的背景と意義1			
4	国際文化研究(日本史)における歴史的背景と意義2			
5	国際文化研究(日本史)における国内の動向			
6	国際文化研究(日本史)における海外の動向			
7	国際文化研究(日本史)における研究者の役割			
8	国際文化研究(日本史)における研究者の倫理			
9	国際文化研究(日本史)における成果と課題1			
10	国際文化研究(日本史)における成果と課題2			
11	国際文化研究(日本史)における新たな研究方法の検討1			
12	国際文化研究(日本史)における新たな研究方法の検討2			
13	国際文化研究(日本史)における将来像1			
14	国際文化研究(日本史)における将来像2			
【テキスト】				
授業の中で配布				
【参考書・参考資料等】				
授業の中で配布				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読すること				
【課題の種類・内容】				
レポート及び口頭発表を課すことがある				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の意見、発表に対して随時感想と注意点を明確にし、建設的なコメントをする				
【成績評価方法・基準】				
口頭発表50% 出席50%				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	中国民族文化論特殊講義Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	金縄 初美			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1. 現代中国における民族文化について原文講読を通じて理解を深める。2. 研究方法や問題点を検討する力を養う。				
【講義概要】				
現代中国における少数民族をめぐる問題は多様化しており、観光化、文化変容、文化伝承、ジェンダー問題、移住問題、エスニシティなど多岐にわたる方面で研究が行われている。本講義では少数民族が多く居住する中国西南地区における諸問題を事例として取り上げ、中国民族文化に関する知識を深め、各自の発表を通じて、中国少数民族に関する諸問題を検討する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	本講義の進め方—発表方法について			
2	民族研究の歴史と中国社会(1)これまでの民族研究の流れ			
3	人類学にとっての中国というフィールド(1)中国社会研究の流れ			
4	人類学にとっての中国というフィールド(2)民族研究の流れ			
5	中国社会と家族・宗族(1)家族と人口移動			
6	中国社会と家族・宗族(2)祖先崇拜の現状			
7	中国社会と信仰(1)中国における信仰			
8	中国社会と信仰(2)中国少数民族の信仰			
9	中国社会と信仰(3)民間信仰			
10	民族文化と観光化(1)開発の問題点			
11	民族文化と保存活動(1)発展の過程			
12	民族文化と保存活動(2)開発の影響			
13	民族文化と保存活動(3)活動組織の形成			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし、プリントを配付する				
【参考書・参考資料等】				
瀬川昌久『中国社会の人類学 親族・家族からの展望』(世界思想社、2004年)、その他授業中に適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
授業での発表を準備する(1.5時間)、講義内容を見直し、理解を深める(1.5時間)。				
【課題の種類・内容】				
授業では与えられた課題に沿って発表してもらう。発表時には受講生数分のレジユメを作成し、発表準備をすること。(3時間)				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の発表内容について指導する。				
【成績評価方法・基準】				
与えられた課題に基づいた授業での発表(60点)、授業に対する態度(積極度)(40点)				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	中国民族文化論演習 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	金縄 初美			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1. 文献講読を通じて、中国をフィールドとした文化研究をおこなうための専門知識を身につける。2. 講義での議論や発表を通じて、問題課題について分析する思考力を養う。				
【講義概要】				
中国民族学に関する文献を熟読し、これまで中華圏をフィールドして行われた民族研究の歴史と要点を理解する。後期は中国における言語文化と信仰に関する現状や問題、及び文化保存について、著しく変化する社会における具体的事例を取り上げて講義し、議論を深めたい。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	イントロダクション 授業の進め方	15	授業の進め方	
2	中国研究の流れ	16	少数民族の言語文化について(概要)	
3	先駆的研究の時代	17	少数民族の言語文化(研究動向)	
4	先駆的研究の時代 現地調査の始まり	18	少数民族の言語文化(各民族の特徴)	
5	1920年代から新中国まで	19	民間文学と社会の関係(研究動向)	
6	日本人研究者による中国社会研究	20	民間文学と社会の関係(事例1)	
7	日本人研究者による中国社会研究	21	民間文学と社会の関係(事例2)	
8	新中国成立から文革時代へ(1)問題の設定	22	中国の宗教(概要)	
9	新中国成立から文革時代へ(2)発表	23	社会と宗教(1)	
10	欧米の人類学者による中国研究(1)問題の設定	24	社会と宗教(2)	
11	欧米の人類学者による中国研究(2)発表	25	社会と宗教(事例1)	
12	もう一つの中国社会(1)問題の設定	26	社会と宗教(事例2)	
13	もう一つの中国社会(2)発表	27	民族文化の変容と研究方法	
14	前期のまとめ	28	後期のまとめ	
【テキスト】				
なし。プリントを配布する。				
【参考書・参考資料等】				
『中国社会の人類学』(瀬川昌久、世界思想社、2004年) その他授業中に紹介する				
【事前・事後学習、時間等】				
授業での発表を準備する 1. 5時間。講義内容を見直し、理解を深める(1.5時間)				
【課題の種類・内容】				
与えられた課題を準備する(3時間)				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の発表やレポート添削によって指導する。				
【成績評価方法・基準】				
与えられた課題に基づいた授業での発表(60点)、授業に対する態度(積極度)(40点)				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	金縄 初美			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(中国民族文化)研究の最新の動向を踏まえ、必要となる研究法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。そして、研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるため、必要となる学修課題に取り組み、習得した知識を自分自身の具体的な研究法に結び付け、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(中国民族文化)における基礎的概念の整理			
2	国際文化研究(中国民族文化)における基礎的概念の応用			
3	国際文化研究(中国民族文化)と周辺領域との関係			
4	国際文化研究(中国民族文化)における歴史的背景と意義			
5	国際文化研究(中国民族文化)における国内の動向			
6	国際文化研究(中国民族文化)における海外の動向			
7	国際文化研究(中国民族文化)における最新の研究事例と批判的検討			
8	国際文化研究(中国民族文化)における研究者の役割と研究倫理			
9	国際文化研究(中国民族文化)における成果と課題1			
10	国際文化研究(中国民族文化)における成果と課題2			
11	国際文化研究(中国民族文化)における新たな研究方法の検討1			
12	国際文化研究(中国民族文化)における新たな研究方法の検討2			
13	国際文化研究(中国民族文化)における将来像			
14	国際文化研究(中国民族文化)における今後の課題			
【テキスト】				
授業のなかで配布する。				
【参考書・参考資料等】				
授業の中で適宜配布する。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読すること。				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容を理解し、各自の研究に利用することができるようにするため、レポート及び口頭発表を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の意見、発表に対して随時感想と注意点を明確にし、建設的なコメントをする。				
【成績評価方法・基準】				
口頭発表50%、レポート50%				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	日本文化論特殊講義II	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		前期		
担当教員名	西村将洋			
【講義の到達目標及びテーマ】 歴史・政治・文化の交差点を探求する				
<p>この授業の到達目標は以下の3点にまとめられる。</p> <p>(1) 近代日本研究に関する、基礎的な知識や方法論を学ぶ。</p> <p>(2) 歴史、政治、文化を結びつけて考察することで、学際的な視野を育てる。</p> <p>(3) 国際的な矛盾に関する議論を重ねることで、受講者の判断力や思考力を涵養する。</p>				
【講義概要】日清戦争前後の学際的な文化研究				
<p>この授業では、日清戦争前後の時代に注目し、政治、メディア、大衆文化(流行歌、演劇、文学)が連鎖的に入り乱れる状況を、学際的な観点から分析する。その際に、単にテキストの内容を解説するだけでなく、研究手法についても適宜考察を進めることで、修士論文執筆に向けた基礎的かつ実践的な方法論を修得していく。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	〈導入〉歴史の断層			
2	流行歌は予言する			
3	英雄のイメージ論			
4	正義と戦争の狭間で			
5	従軍記者の誕生			
6	美しい戦争？			
7	演劇における感性の変革			
8	リアリティが変貌するとき			
9	祝祭と高揚感			
10	子どもの遊びと戦争			
11	教科書のなかの戦争			
12	死者の行方			
13	変容する記念碑			
14	〈まとめ〉孫文の日本評			
【テキスト】				
佐谷眞木人『日清戦争——「国民」の誕生』講談社現代新書、2009年				
【参考書・参考資料等】				
なし。 ※ただし発展的理解に関する参考文献については授業中に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>本科目では授業各回について、以下に記した2コマ相当の自主学習が求められる。</p> <p>・事前学習として、次回の授業で扱うテキストの当該箇所を精読する(20%)。またテキストに記載されている特別な用語等について、図書館で事典や関連書籍を参照し、事前に意味調べを行う(40%)。</p> <p>・事後学習として、授業終了後は毎回の内容について復習し、個人研究に活用していく(40%)。</p>				
【課題の種類・内容】				
<p>・受講者は毎回担当者となり、文献の要約作業を行う。</p> <p>・その担当者の要約に基づいて、教員が解説を行いながら受講者と共同討議を行う。</p>				
【課題に対するフィードバックの方法】				
共同討議の際にフィードバックの機会を設ける。				
【成績評価方法・基準】				
各回の要約作業(50%)と共同討議での発言内容(50%)で評価する。				
【履修上の注意】				
<p>日本文化以外の専門領域を研究する受講生も歓迎する。</p> <p>無断欠席をしないこと(必ず事前連絡すること)。無断欠席が3回以上の場合は単位を認定しない。</p> <p>授業の状況や進度によって、上記の【講義計画内容】は一部変更となる場合がある。</p>				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	日本文化論演習I		単位数	使用言語
	通年・前期・後期	通年	4	日本語
担当教員名	西村将洋			
【講義の到達目標及びテーマ】「過去の語り方」を探究する 人文科学の研究においては、過去の出来事をどのように再構成するかが重要な問題となる。この演習では歴史記述の方法を分析することで、多様な「過去の語り方」を探究する。演習の具体的な到達目標は、以下の3点である。 (1) 修士論文の執筆に向けた具体的な方法を学ぶとともに、各自の研究計画を立案する。 (2) 受講生に具体的な文献調査を課すことで、各自の調査能力を養成する。 (3) 受講生各自の研究テーマに関する文献を輪読することで、文献読解力を涵養する。				
【講義概要】 この授業では、過去の出来事を記述する際の様々な方法論を探究する。加えて、実習、個人発表、輪読、共同討議の4つの学びを組み合わせることで、修士論文を執筆するための方法を身につけ、各自の個人研究を着実に進展させる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	導入：修士論文の執筆に向けた道のり	15	導入：研究計画の振り返りと再策定	
2	図書館での調査実習	16	書誌学とデータベースに関する基礎知識	
3	年表を読む	17	先行研究の分析方法	
4	研究発表の方法論	18	方法論の応用(1) 涙の歴史は記述できるのか？	
5	方法論の基礎(1) 歴史が崩壊する	19	方法論の応用(2) 歴史は人間を変化させる	
6	方法論の基礎(2) パラダイムの変換	20	方法論の応用(3) 感情と倫理の臨界点	
7	方法論の基礎(3) 文化多元論と歴史記述	21	受講生のデータベース報告	
8	受講生の文献報告	22	輪読と共同討議 II (1) 歴史分析の基礎	
9	輪読と共同討議 I (1) 歴史分析の基礎	23	輪読と共同討議 II (2) 歴史分析の展開	
10	輪読と共同討議 I (2) 歴史分析の展開	24	輪読と共同討議 II (3) 歴史分析の応用	
11	輪読と共同討議 I (3) 歴史分析の応用	25	輪読と共同討議 II (4) 歴史分析の発展	
12	輪読と共同討議 I (4) 歴史分析のまとめ	26	輪読と共同討議 II (5) 歴史分析のまとめ	
13	研究エッセイの発表	27	先行研究分析の発表	
14	前期のまとめと今後の研究計画の策定	28	演習のまとめと今後の研究計画の策定	
【テキスト】 なし。 ※複数の研究論文をテキストとして配布する。				
【参考書・参考資料等】 なし。 ※ただし発展的理解に関する参考文献については授業中に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】 本科目では授業各回について、以下に記した2コマ相当の自主学習が求められる。 ・事前学習として、次回の授業で扱うテキストの当該箇所を精読する(20%)。またテキストに記載されている特別な用語等について、図書館で事典や関連書籍を参照し、事前に意味調べを行う(40%)。 ・事後学習として、授業終了後は毎回の内容について復習し、個人研究に活用していく(40%)。				
【課題の種類・内容】 ・前期：受講生には1回の文献報告と、1回の研究エッセイの発表を課す。また輪読と共同討議への参加を課す。 ・後期：受講生には1回のデータベース報告と、1回の先行研究分析の発表を課す。また輪読と共同討議への参加を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】 共同討議の際にフィードバックの機会を設ける。				
【成績評価方法・基準】 文献報告(10%)、研究エッセイの発表(30%)、データベース報告(10%)、先行研究分析の発表(30%)、共同討議での発言内容(20%)で評価する。				
【履修上の注意】 日本文化以外の専門領域を研究する院生の受講も歓迎する。 無断欠席をしないこと(必ず事前連絡すること)。無断欠席が3回以上の場合には単位を認定しない。 授業の状況や進度によって、上記の【講義計画内容】は一部変更となる場合がある。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	アジア社会文化論研究実習	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		後期		
担当教員名	西村将洋			
【講義の到達目標及びテーマ】 近現代日本に関する研究調査の計画と実施				
各自の研究テーマに基づいて実地調査を行うために、調査計画の策定方法や具体的な調査の手続きを学ぶことで、総合的な調査能力を養成する。具体的な到達目標は以下の3点にまとめられる。				
(1) 書誌学的な知識を修得する。				
(2) 専門機関との具体的な交渉や手続きの仕方を学ぶ。				
(3) 研究調査に基づいて実証的に研究する力を身につける。				
【講義概要】				
受講者の研究テーマに応じて個別指導を行いながら調査計画書を作成し、実地調査を行う。終了後は調査報告書をまとめるとともに、その結果を個人研究全体の中に位置づける作業を行っていく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1				
2				
3	受講者は担当教員と相談しながら、各自の調査計画書を作成していく。			
4	調査の手順としては、西南学院大学図書館を中心としながら、近隣の大学図書館(九州大学、福岡大学など)や、公共図書館(福岡市総合図書館、福岡県立図書館など)での調査を行った後、福岡県外の大学図書館や、以下に記した専門機関での調査を実施していく。			
5	【専門機関の名称】			
6	・国立国会図書館			
7	・国立古文書館			
8	・国際交流基金図書館			
9	・外務省外交史料館			
10	・日本近代文学館			
11	・神奈川近代文学館			
12	・日本詩歌文学館			
13	・日本俳句文学館 その他			
14	また必要であれば、日本国外での調査も実施する。海外の専門機関を利用する場合には、事前に様々な準備や手続きが必要になるので、さらに慎重な研究計画の作成が重要となる。			
【テキスト】				
各受講生の研究テーマに拠る。				
【参考書・参考資料等】				
各受講生の研究テーマに拠る。				
【事前・事後学習、時間等】				
演習や特殊講義の授業内容と結びつけながら、各自の調査計画書と調査報告書を作成する。				
【課題の種類・内容】				
受講者には調査計画書と調査報告書の作成と提出を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
調査前と調査後に行う個別指導の際に、フィードバックの機会を設ける。				
【成績評価方法・基準】				
個別指導でのディスカッション(10%)、調査計画書(60%)と調査報告書(30%)で評価する。				
【履修上の注意】				
特に調査計画書の作成が重要となる。受講者は演習や特殊講義の授業内容と結びつけながら、各自の問題意識に基づいて、できるだけ詳細な調査計画を作成していくこと。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	西村将洋			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)の最新の動向を踏まえ、必要となる研究方法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。そして、研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)に関する基礎的な研究方法の習得を目的とする。また最新の研究動向を学ぶとともに、研究者のあるべき姿についても考えていく。具体例として谷崎潤一郎の文学作品を中心に取りあげる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における実証性:作家と実人生の関連性			
2	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における基礎概念の整理:二項対立的思考と排除のシステム			
3	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における基礎概念の応用:記号論の可能性			
4	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における周辺領域の関係:住環境と人間の思考法			
5	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における歴史的背景と意義①:間テクスト性の探求——歴史的考察——			
6	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における歴史的背景と意義②:間テクスト性の探求——映画表象の分析——			
7	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における新たな研究法の検討:都市テクスト論をめぐって			
8	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における国内の動向:近代化と概念の変容をめぐって			
9	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における海外の動向:物語論(ナラトロジー)をめぐって			
10	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における最新の研究事例①文化資本をめぐって			
11	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における最新の研究事例②近代社会とミソジニー(女性嫌悪)をめぐって			
12	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における最新の研究事例③ポストコロニアリズムをめぐって			
13	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)における最新の研究事例の批判的検討:<帝国>をめぐって			
14	国際文化研究(日本文化論/日本近代文学研究)の将来像と今後の課題:研究主体の倫理とポリティカル・コレクトネス			
【テキスト】				
講義中に谷崎潤一郎の作品を紹介するので、受講生は各自で準備すること。				
【参考書・参考資料等】				
講義中に研究論文を紹介するので、受講生は各自で図書館を利用して論文のコピーを準備すること。				
【事前・事後学習、時間等】				
受講生には、谷崎の文学作品と、研究論文についての精読と復習を課す(事前学習については平均で5時間程度が必要となる)				
【課題の種類・内容】				
研究論文の要約11回。期末レポート1回。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義中の意見に対して随時感想と注意点を明確にし、建設的なコメントをする。				
【成績評価方法・基準】				
講義中の発言(30%)、研究論文の要約11回(40%)、期末レポート1回(30%)で評価する。				
【履修上の注意】				
無断欠席は認めない。また3回以上欠席した場合は単位を認定しない。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	日本文化史論特殊講義Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	尹 芝恵			
【講義の到達目標及びテーマ】				
葛飾北斎の描いた浮世絵を考察することで、江戸時代の庶民文化について理解を深める。				
【講義概要】				
政治・経済的な安定とともに発展した江戸時代の庶民文化の一つである浮世絵を取り上げ、庶民が何を考え何を好み何を求めてきたのかを分析する。特に北斎漫画などで外国人や外国からの動物などを表現してきた北斎に注目することで彼の世界観と庶民に与えた影響についても探っていきたい。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	浮世絵とは			
2	江戸時代の庶民文化としての浮世絵			
3	浮世絵師と版元			
4	浮世絵版画の発展			
5	江戸時代の主な浮世絵師と作品			
6	葛飾北斎とは			
7	庶民の旅の流行と名所絵			
8	富嶽三十六景			
9	北斎漫画			
10	北斎と朝鮮通信使			
11	北斎と印象派			
12	映画「HOKUSAI」①			
13	映画「HOKUSAI」②			
14	まとめーディスカッション			
【テキスト】				
なし(資料を配布)。				
【参考書・参考資料等】				
関連書籍などを適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
レポート作成や授業内容を理解するため、各自納得できるまで時間をかけること。				
【課題の種類・内容】				
レポートなどを提出させ、毎回の講義を十分理解していたかを確認する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートは添削後指導する。質問に関しては個別に対応する。				
【成績評価方法・基準】				
授業態度+出席(50%)、レポート(50%)。				
【履修上の注意】				
質問するなど積極的に参加すること。無断欠席は禁止。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	日本文化史論演習 I	通年・前期・後期		単位数	使用言語
		通年		4	日本語
担当教員名	尹 芝恵				
【講義の到達目標及びテーマ】					
「朝鮮通信使」をテーマに、江戸時代の日朝(韓)交流の実態を探り、当時の国際交流とは何かそして両国に及ぼした影響について考察する。					
【講義概要】					
江戸時代における鮮通信使を通じた日朝(韓)両国の交流は、戦後処理という政治的な理由で始まったが、回を重ねることで医学や儒学と言った学問をはじめ、絵画や詩、庶民の祭りに至るまでの文化にも影響を及ぼすことになった。その文化交流の足跡をたどる研究が近年日韓両国の各分野で活発に行われている。それら研究資料を読み、理解を深めて行く。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	朝鮮通信使とは		15	朝鮮通信使の文化交流について	
2	江戸時代の日本の国際関係		16	朝鮮通信使の旅日記-使行録	
3	朝鮮王朝の対日外交		17	芸能一馬上才	
4	朝鮮通信使の始まり-戦後処理のために		18	絵画①-文人画家の交流	
5	朝鮮国内の往路と復路		19	絵画②-描かれた朝鮮通信使	
6	朝鮮通信使が通った日本の道		20	朝鮮からの贈りもの-鷹と鷹図	
7	中間まとめ-ディスカッション		21	中間まとめ-ディスカッション	
8	論文紹介①		22	論文紹介⑤	
9	論文紹介②		23	論文紹介⑥	
10	論文紹介③		24	論文紹介⑦	
11	論文紹介④		25	論文紹介⑧	
12	受講者発表①		26	受講者発表③	
13	受講者発表②		27	受講者発表④	
14	前期まとめ		28	後期まとめ	
【テキスト】					
なし(資料を配布)。					
【参考書・参考資料等】					
朝鮮通信使や江戸時代の交流に関する書籍などを適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
ディスカッションやレポート作成のため、各自納得できるまで時間をかけること。					
【課題の種類・内容】					
レポートなどを提出させ、毎回の講義を十分理解していたかを確認する。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
レポートは添削後指導する。質問に関しては個別に対応する。					
【成績評価方法・基準】					
授業態度+出席(50%)、発表+レポート(50%)、とする。					
【履修上の注意】					
積極的にディスカッションに参加すること。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	中国近現代文化論特殊講義Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	新谷 秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
テーマ: 現代中国の言論状況と文学者 —— 余華のエッセイを中心に 到達目標: 1. 現代中国の言論状況に関する広い視野と、現代文学に関する専門知識を身につける。 2. 文献を読み込む作業を通して研究活動に必要な読解力、洞察力を身につける。				
【講義概要】				
現代中国の表現者たちは中国共産党による言論統制を受け容れながらも、一方では表現の自由を目指して果敢に抗おうとする姿勢を垣間見せることがある。余華や閻連科といった作家たちの昨今の作品がその一例である。本講義ではまず余華のエッセイ《十个词汇里的中国》をとりあげ、文化大革命や六四天安門事件といった政治的背景を考慮しながら読解を試みる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス この講義の目的、進め方、テキスト等について			
2	作者・余華について 略歴、主要作品など			
3	第1編「人民」			
4	第2編「領袖」			
5	第3編「読書」			
6	第4編「創作」			
7	第5編「魯迅」			
8	第6編「格差」			
9	第7編「革命」			
10	第8編「草の根」			
11	第9編「山寨」			
12	第10編「忽悠」			
13	余華の他の作品について			
14	まとめとディスカッション			
【テキスト】				
余華『十个詞彙裡的中國』(台湾・麥田出版、2010)、日本語訳『ほんとうの中国の話をしよう』(河出書房新社、2012)				
【参考書・参考資料等】				
授業中に指示する				
【事前・事後学習、時間等】				
事前学習: テキストを予習するとともに、文化大革命後から90年代前後までの政治状況を把握しておく。 事後学習: 講義内容を踏まえ、現代中国の言論状況についてさらに理解を深める。				
【課題の種類・内容】				
レポート				
【課題に対するフィードバックの方法】				
moodleやメールによりフィードバックする。				
【成績評価方法・基準】				
課題の提出(50%) 講義へのコミットメント(50%)				
【履修上の注意】				
基礎的な中国語読解力は必要だが、テキスト自体は日本語訳を利用することが可能。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	中国近現代文化論演習 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	新谷秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
テーマ: 中国近現代文学史 到達目標: 1. 20世紀初頭の文学革命から中華人民共和国成立までの近現代文学を歴史的に把握し、中国語文化圏における文学の価値や文学者の営為を総体的に理解する。 2. 中国語のテキストを日本語訳することで、中国語読解力と日本語表現力の向上を図る。				
【講義概要】				
中国の大学で使用されている一般的な文学史の教科書を利用し、五四新文化運動における文学革命から、1940年代頃までの文学史を精読、時代背景とともに主要な作家と作品に注目しながら全般的状況の理解に努める。テキストを講読する箇所は前年度からの継続とし、今回は第七章の話劇の部分から始める。				
【講義計画内容】				
No.	講義内容			
1	ガイダンス 中国文学における伝統と近代	15	曹禺原作話劇『雷雨』舞台の鑑賞	
2	(第七章)第一節 文明戯と愛美劇(1)	16	(第八章)第一節 命運悲劇—『雷雨』(1)	
3	第一節 文明戯と愛美劇(2)	17	第一節 命運悲劇—『雷雨』(2)	
4	第一節 文明戯と愛美劇(3)	18	第一節 命運悲劇—『雷雨』(3)	
5	第二節 丁西林と初期の独幕劇(1)	19	第二節 『日出』、『原野』及び其の他(1)	
6	第二節 丁西林と初期の独幕劇(2)	20	第二節 『日出』、『原野』及び其の他(2)	
7	第二節 丁西林と初期の独幕劇(3)	21	第二節 『日出』、『原野』及び其の他(3)	
8	第三節 田漢、洪深と浪漫戯劇(1)	22	第三節 文明の挽歌『北京人』(1)	
9	第三節 田漢、洪深と浪漫戯劇(2)	23	第三節 文明の挽歌『北京人』(2)	
10	第三節 田漢、洪深と浪漫戯劇(3)	24	第三節 文明の挽歌『北京人』(3)	
11	第四節 夏衍と戯劇民族化の努力(1)	25	第四節 曹禺の戯劇観及びその影響(1)	
12	第四節 夏衍と戯劇民族化の努力(2)	26	第四節 曹禺の戯劇観及びその影響(2)	
13	第四節 夏衍と戯劇民族化の努力(3)	27	第四節 曹禺の戯劇観及びその影響(3)	
14	前期のまとめとディスカッション	28	後期のまとめとディスカッション	
【テキスト】				
『中国現代文学史(第二版)』(中国人民大学出版社)				
【参考書・参考資料等】				
『百年中国文学総系』(北京大学出版社)				
【事前・事後学習、時間等】				
事前学習として、テキストの該当箇所を日本語に翻訳する。 事後学習として、演習で得た知見を修士論文に反映する。				
【課題の種類・内容】				
担当箇所のテキストを日本語訳すること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義時間中に翻訳の修正を行なう。				
【成績評価方法・基準】				
①毎回の授業における分担発表(50%) ②ディスカッションにおける発言(20%) ③関連するレポート等(30%)				
【履修上の注意】				
中国語原典を読む作業が中心になるので、中国語未習者の受講は想定していない。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	中国近現代文化論研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	新谷秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>テーマ「中国近代文学の発展過程」 清朝末期から1930年代にかけての文学の発展を歴史的に把握し、主要な作品を読解、分析することで、中国文化圏における文学の価値や文学者の営為を理解する。最終的には受講者の博士論文に反映されることを目標とする。</p>				
【講義概要】				
受講者の研究テーマを意識し、関連する資料の探索、文献の読解等を通じて、受講者の研究の進展に寄与する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	魯迅の生涯について(1) 少年時代	15	魯迅の小説(9) 『一件小事』	
2	魯迅の生涯について(2) 留学時代	16	魯迅の小説(10) 『風波』	
3	魯迅の生涯について(3) 教育官僚の時代	17	魯迅の初期評論(1) 『魔羅詩力説』	
4	魯迅の生涯について(4) 五四運動期	18	魯迅の初期評論(2) 『文化偏至論』	
5	魯迅の生涯について(5) 厦門、広州時代	19	魯迅の初期評論(3) 『科学史教篇』	
6	魯迅の生涯について(6) 上海時代	20	魯迅の雑文(1) 『ノラは家を出てどうなったか』	
7	魯迅の小説(1) 『狂人日記』	21	魯迅の雑文(2) 『私の節烈観』	
8	魯迅の小説(2) 『阿Q正伝』の時代背景	22	魯迅の雑文(3) 『フェアプレーはまだ早い』	
9	魯迅の小説(3) 『阿Q正伝』の人物描写	23	魯迅の雑文(4) 『灯下漫筆』	
10	魯迅の小説(4) 『阿Q正伝』の文学的評価	24	魯迅の雑文(5) 『忘却のための記念』	
11	魯迅の小説(5) 『薬』	25	魯迅の文学史的評価	
12	魯迅の小説(6) 『傷逝』	26	博士論文の構成について	
13	魯迅の小説(7) 『故郷』	27	博士論文の主要な論点について	
14	魯迅の小説(8) 『孔乙己』	28	博士論文の引用文と出典について	
【テキスト】				
『魯迅全集』				
【参考書・参考資料等】				
『百年中国文学総系』(北京大学出版社)				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>事前学習: 毎回授業で扱うテーマについて、参考資料を読み、知見を備えておくこと。 事後学習: 授業で得た知識を各自で修士論文の作成に役立てること。</p>				
【課題の種類・内容】				
授業中に課すレポート、小論文				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中にアドバイスをを行う。				
【成績評価方法・基準】				
<p>①毎回の授業における分担発表(50%) ②ディスカッションにおける発言(20%) ③関連するレポート等(30%)</p>				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	中国近現代文化論論文作成指導	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	新谷秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
博士後期課程院生の博士論文の作成に焦点をあて、具体的な目標を立てながら博士論文の完成を目指す。				
【講義概要】				
受講生の論文作成スケジュールにしたがい、必要な資料の読み込みと引用、文章構成、適切な用字用語など、テクニカルな部分を中心に指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス——受講生の論文作成スケジュールの確認、修正			
2	資料収集の方法(1)			
3	資料収集の方法(2)			
4	資料収集の方法(3)			
5	論文の構成(1)			
6	論文の構成(2)			
7	論文の構成(3)			
8	引用資料の確認(1)			
9	引用資料の確認(2)			
10	文章の詳細な添削(1)			
11	文章の詳細な添削(2)			
12	文章の詳細な添削(3)			
13	文章の詳細な添削(4)			
14	最終確認と要綱の作成			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
なし				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業で指示する作業を次回の授業までに完了すること。				
【課題の種類・内容】				
論文作成自体が課題となる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
博士論文に対する講評				
【成績評価方法・基準】				
博士論文の評価をもって替える				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	新谷 秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(中国近現代文学)の最新の動向を踏まえ、必要となる研究法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。そして、研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していくうえで必要となる意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるため、必要となる学修課題に取り組み、習得した知識を自分自身の具体的な研究法に結び付け、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(中国近現代文学)における基本的概念の整理			
2	国際文化研究(中国近現代文学)における基礎的概念の応用			
3	国際文化研究(中国近現代文学)と周辺領域の関係			
4	国際文化研究(中国近現代文学)における歴史的背景と意義			
5	国際文化研究(中国近現代文学)における国内の動向			
6	国際文化研究(中国近現代文学)における海外の動向			
7	国際文化研究(中国近現代文学)における研究者の役割と研究倫理			
8	国際文化研究(中国近現代文学)における成果と課題			
9	国際文化研究(中国近現代文学)における最新の研究事例			
10	国際文化研究(中国近現代文学)における最新の研究事例の批判的検討			
11	国際文化研究(中国近現代文学)における新たな研究法の検討			
12	学術雑誌への投稿とガイドラインの順守			
13	自律的学習者としての研究者の在り方			
14	国際文化研究(中国近現代文学)の将来像と今後の課題			
【テキスト】				
特定のテキストはない。必要な資料を講義中に配布する。				
【参考書・参考資料等】				
講義中に紹介する				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。(1.5時間程度)				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
口頭発表に対しては随時アドバイスをし、提出されたレポートに対しては事後にコメントを付してフィードバックをする。				
【成績評価方法・基準】				
・口頭発表:50% ・レポート:50%				
【履修上の注意】				
研究者としてのライフ・スタイルを確立して自己のスケジュール管理と健康管理に努め授業に臨んでほしい。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	イタリア・地中海文化論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
教員名	山田 順			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>人間は皆、死すべき運命にある。それは、古代であろうと現代であろうと変わることはない事実だ。肉親の死、仲間の死、そして自分の死。誰もが受け入れ難いが、誰もが受け入れざるを得ない死という出来事。葬礼文化とは、人類の歴史の中で繰り広げられてきたような「死の受容」の諸相である。葬礼文化をもたない民族は存在しない。そして、人間存在の根源にかかわるこの死の文化のなかには、個々の民族や社会が抱いていた来世観、世界観が濃密に表出されている。</p> <p>この授業は、特に、古代から初期中世にかけてイタリア半島に存在した葬礼領域の考古学的・図像学的資料に関する欧文の文献(主にイタリア語)を受講者と共に読み進めながら、古代地中海世界の葬礼文化の一形態について理解を深めることを目的とする。</p>				
【講義概要】				
この授業は、古代末期、多神教的異教から一神教的キリスト教へと変容した都市ローマに注目し、2～5世紀までの初期キリスト教考古学・図像学について、イタリア語の基礎文献を読み解きながら、この学問の概要、研究史、方法論、基礎的専門用語について学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	初期キリスト教考古学とは何か—イントロダクション			
2	初期キリスト教考古学の概要			
3	初期キリスト教考古学の研究史—基礎文献①			
4	初期キリスト教考古学の研究史—基礎文献②			
5	初期キリスト教考古学の研究史—基礎文献③			
6	初期キリスト教考古学の史料と資料①			
7	初期キリスト教考古学の史料と資料②			
8	初期キリスト教考古学の史料と資料③			
9	初期キリスト教考古学の地誌学的研究①: 共同墓地の地誌学			
10	初期キリスト教考古学の地誌学的研究②: 第一世代の大聖堂			
11	初期キリスト教考古学の地誌学的研究③: 第一世代の民間教会			
12	初期キリスト教考古学の図像学的研究①: 壁画図像			
13	初期キリスト教考古学の図像学的研究②: 彫刻図像			
14	まとめ			
【テキスト】				
Pasquale TESTINI, <i>Archeologia cristiana</i> , Bari 1980.				
【参考書・参考資料等】				
Fabrizio. BISCONTI (ed.), <i>Temi di iconografia paleocristiana</i> , Città del Vaticano; V.Fiocchi Nicolai, F. Bisconti, D. Mazzoleni, <i>Le Catacombe Cristiane di Roma - origini, sviluppo, apparati decorativi, documentazione epigrafica</i> , Regensburg 1998.				
【事前・事後学習、時間等】				
履修者は、事前にイタリア語テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握した授業に臨むための事前学習(3～4時間)が求められる。				
【課題の種類・内容】				
上記、イタリア語テキストの講読・まとめなど				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎月行う小テストで内容を理解しているかを確認し、できていないところを個別指導する。				
【成績評価方法・基準】				
①授業への取り組み(事前準備が十分であるか)、②内容がしっかりと理解できているか、③専門分野のイタリア語の読解能力はであるか、以上を基準として成績評価を行う。				
【履修上の注意】				
授業についていけるイタリア語能力(上級以上)のない者は履修しないこと。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	イタリア・地中海文化論特殊講義 II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
教員名	山田 順			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>人間は皆、死すべき運命にある。それは、古代であろうと現代であろうと変わることはない事実だ。肉親の死、仲間の死、そして自分の死。誰もが受け入れ難いが、誰もが受け入れざるを得ない死という出来事。葬礼文化とは、人類の歴史の中で繰り広げられてきたような「死の受容」の諸相である。葬礼文化をもたない民族は存在しない。そして、人間存在の根源にかかわるこの死の文化のなかには、個々の民族や社会が抱いていた来世観、世界観が濃密に表出されている。</p> <p>この授業は、特に、古代から初期中世にかけてイタリア半島に存在した葬礼領域の考古学的・図像学的資料に関する欧文の文献(主にイタリア語)を受講者と共に読み進めながら、古代地中海世界の葬礼文化の一形態について、理解を深めることを目的とする。</p>				
【講義概要】				
<p>この授業は、古代末期、多神教的異教から一神教的キリスト教へと変容した都市ローマに注目し、2～5世紀までの初期キリスト教考古学のなかでも図像学について、イタリア語の基礎文献を読み解きながら、この学問の概要、研究史、方法論、そして、特に図像学的研究成果について学ぶ。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	初期キリスト教図像学とは何か—イントロダクション			
2	初期キリスト教図像学の概要			
3	初期キリスト教図像学の研究史—基礎文献①			
4	初期キリスト教図像学の研究史—基礎文献②			
5	初期キリスト教図像学の研究史—基礎文献③			
6	初期キリスト教考古学と図像学①			
7	初期キリスト教考古学と図像学②			
8	初期キリスト教考古学と図像学③			
9	初期キリスト教図像学の具体的作例:壁画画像①			
10	初期キリスト教図像学の具体的作例:壁画画像②			
11	初期キリスト教図像学の具体的作例:壁画画像③			
12	初期キリスト教図像学の具体的作例:彫刻画像①			
13	初期キリスト教図像学の具体的作例:彫刻画像②			
14	初期キリスト教図像学の具体的作例:彫刻画像③			
【テキスト】				
Fabrizio. BISCONTI (ed.), <i>Temi di iconografia paleocristiana</i> , Città del Vaticano.				
【参考書・参考資料等】				
Pasquale TESTINI, <i>Archeologia cristiana</i> , Bari 1980; V.Fiocchi Nicolai, F. Bisconti, D. Mazzoleni, <i>Le Catacombe Cristiane di Roma - origini, sviluppo, apparati decorativi, documentazione epigrafica</i> , Regensburg 1998.				
【事前・事後学習、時間等】				
履修者は、事前にイタリア語テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握した授業に臨むための事前学習(3～4時間)が求められる。				
【課題の種類・内容】				
上記、イタリア語テキストの講読・まとめなど				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎月行う小テストで内容を理解しているかを確認し、できていないところを個別指導する。				
【成績評価方法・基準】				
①授業への取り組み(事前準備が十分であるか)、②内容がしっかりと理解できているか、③専門分野のイタリア語の読解能力はであるか、以上を基準として成績評価を行う。				
【履修上の注意】				
授業についていけないイタリア語能力のない者は履修しないこと。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	イタリア・地中海文化論演習Ⅰ	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	山田 順			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この授業は、初期キリスト教考古学における、キリスト教地誌学、および、キリスト教図像学の二つの分野について、イタリア語の文献資料を講読しながら、より専門的知識を習得し、この学問領域に関する理解を深めることを授業の到達目標とする。同時に、修士論文の執筆に向けた準備として、具体的な欧文・文献の講読をもとに研究発表を行うことで、より質の高い修士論文を執筆するために必要なスキルを身につけることも、本授業の到達目標のひとつとしている。				
【講義概要】				
この授業では、古代末期の多神教的異教世界から一神教的キリスト教世界へと変容した、2～5世紀の都市ローマ激動の時代について、イタリア語の文献テキストを講読しながら、その知識を深める。また、修士論文のための問題設定、論理展開など、より専門的な論文執筆に向けた基本的スキルとものの考え方、研究の進め方を習得する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	イントロダクション	15	イントロダクション	
2	研究計画立案指導	16	修士論文執筆に向けた研究テーマ・研究課題の確認	
3	考古学・図像学研究の基礎と応用	17	論文執筆上のルール(文献引用方法・剽窃問題・研究倫理)	
4	基礎研究資料検索・収集方法・文献の取り扱い方	18	近年の学会における研究状況と研究手法の確認	
5	考古学研究の基礎と応用	19	最新の研究成果の確認	
6	図像学研究の基礎と応用	20	演習発表と指導①:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
7	修士論文執筆基礎準備①(研究テーマ選択・課題の掘り下げ)	21	演習発表と指導②:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
8	修士論文執筆基礎準備②(考古学・図像資料の取り扱い・分析)	22	演習発表と指導③:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
9	修士論文執筆基礎準備③(論文論理構成・論理展開)	23	演習発表と指導④:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
10	演習発表と指導①:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	24	演習発表と指導⑤:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
11	演習発表と指導②:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	25	演習発表と指導⑥:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
12	演習発表と指導③:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	26	演習発表と指導⑦:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
13	演習発表と指導④:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	27	演習発表と指導⑧:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	
14	演習発表と指導⑤:基礎文献講読と内容確認(個別欧文文献)	28	まとめと確認	
【テキスト】				
V.Fiocchi Nicolai, F. Bisconti, D. Mazzoleni, Le Catacombe Cristiane di Roma - origini, sviluppo, apparati decorativi, documentazione epigrafica, Regensburg 1998.				
【参考書・参考資料等】				
Fabrizio. BISCONTI (ed.), <i>Temi di iconografia paleocristiana</i> , Città del Vaticano; Pasquale TESTINI, Archeologia cristiana, Bari 1980.				
【事前・事後学習、時間等】				
履修者は、事前にイタリア語テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握した授業に臨むための事前学習(3～4時間)が求められる。				
【課題の種類・内容】				
上記、イタリア語テキストの講読・まとめなど				
【課題に対するフィードバックの方法】				
課題文献の内容を理解しているかを確認し、できていないところを随時個別指導する。				
【成績評価方法・基準】				
①授業への取り組み(事前準備が十分であるか)、②文献テキスト内容がしっかりと理解できているか、③専門分野のイタリア語の読解能力は習得できたか、以上を基準として成績評価を行う。				
【履修上の注意】				
授業についていけないイタリア語能力(上級以上)のない者は履修しないこと。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	美学・芸術学特殊講義II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	柿木伸之			
【講義の到達目標及びテーマ】				
「音楽劇のメタモルフォシス」(metamorphosis=変容、変貌)をテーマに行なわれるこの講義は、舞台芸術をオペラを中心に考察することによって、舞台芸術の歴史についての見通しを得るとともに、音楽や演出の意味などへの批評的な視座を得ることを目指すものです。				
【講義概要】				
舞台芸術を音楽劇を中心に歴史的かつ美学的に考察するとことによって、舞台芸術の美的特性と、社会的な生にとっての意義の双方について理解を深めていきます。古代ギリシアの悲劇から現代のオペラまでの歴史をたどるなかで、主要作品における劇の構成や音楽、とくに歌の意味を検討していきます。各時代の作品において「人間」が、あるいはその他者がどのように表象されるかにも注目します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション			
2	音楽からの劇の誕生:ギリシア悲劇とその歴史			
3	アンティゴネーの変貌:ソポクレスの《アンティゴネー》とその改作			
4	受難の表象:受難劇と受難曲			
5	ギリシア悲劇を再現する:ルネサンスとしてのオペラの誕生			
6	宮廷における神話のスペクタクル:バロックのオペラ			
7	人間の解放としてのオペラの革命:モーツァルトとベートーヴェン			
8	「歌芝居」における「人間」とその他者:モーツァルトの《魔笛》			
9	シェイクスピアの音楽的表象:ヴェルディにおけるシェイクスピアの翻案			
10	人間の神話的表象:ヴァーグナーの楽劇とニーチェ			
11	自由の表象としてのオペラ:ビゼーの《カルメン》とフランスのオペラ			
12	没落の表象とその音楽:ベルクとショスタコーヴィチ			
13	社会に介入する音楽劇:ブレヒトとヴァイルの挑戦			
14	能の精神からのオペラの創造:細川俊夫のオペラ			
【テキスト】				
テキストはとくに指定しません。				
【参考書・参考資料等】				
戸田幸策『オペラの誕生』(平凡社ライブラリー、2006年)。 岡田暁生『オペラの運命——十九世紀を魅了した「一夜の夢」』中公新書、2001年。※その他の参考文献は講義のなかで紹介いたします。				
【事前・事後学習、時間等】				
できるだけ紹介される作品の映像などを事前に見て講義に臨んでください(2.5時間)。 講義後は、ノートを見返したり、参考文献を読んだりして、学んだ内容を整理してください(0.5時間)。				
【課題の種類・内容】				
各回の講義でのコメント、紹介された作品の論評(2000字以上)。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義へのコメントにはその場で応答します。作品の論評についても講評の場を設けます。				
【成績評価方法・基準】				
各回の講義へのコメントの内容(30%)と講義で紹介された作品の論評(70%)を総合して評価します。				
【履修上の注意】				
上記の計画は、受講者と相談のうえで変更されることがあります。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	美学・芸術学演習I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	柿木伸之			
【講義の到達目標及びテーマ】				
今年度の演習は「うたの美学」をテーマに掲げます。前期の演習は、音楽の置かれた歴史的状況やそのなかでの音楽の変革を視野に入れた音楽の美学をテーマに進められます。演習をつうじて音楽作品の美的特質を捉える批評的な視座を得るとともに、音楽の美的経験の意義について問題意識を深めることを目標とします。後期の演習は、詩的言語とその翻訳の意義をテーマに進められます。演習をつうじて、詩的作品の翻訳の創造性について理解を深めるとともに、詩的な作品をその歴史的な文脈を踏まえて批評し、その言語の力を今に引き出すことへの問題意識を深めることを目標とします。				
【講義概要】				
前期の演習では、20世紀の音楽美学を代表する一人であるテオドア・W・アドルノの美学を、その音楽論集『幻想曲風に』を中心に検討し、そこで展開される、20世紀の歴史的状況や、そこでの音楽の革新と退行を視野に収めた議論の美学的意義を探ります。それをつうじて、情報化が進んだ現代における音楽芸術とその美的経験をめぐる問題や、その意義について議論を深めることを目指します。後期の演習では、近代フランスの詩人シャルル・ボードレールの詩作とその翻訳、さらには作品の潜在力を歴史的な文脈のなかに見いだす批評を、20世紀前半に活動したユダヤ人の思想家ヴァルター・ベンヤミンの翻訳論とボードレー論を手がかりに検討し、これらの美学的意義を探ります。それをつうじて歴史的状況における詩的言語の変革への視野を開くとともに、翻訳と批評の文学的意義を掘り下げます。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	顔合わせ、演習の計画	15	休暇中の課題の報告、後期の演習の計画	
2	二十世紀における音楽の変革とアドルノの音楽美学	16	ボードレールの詩作とその翻訳	
3	アドルノ『幻想曲風に』I	17	ベンヤミン「翻訳者の課題」I	
4	アドルノ『幻想曲風に』II	18	ベンヤミン「翻訳者の課題」II	
5	アドルノ『幻想曲風に』III	19	「翻訳者の課題」関連文献の検討	
6	アドルノ『幻想曲風に』IV	20	ベンヤミン「ボードレールにおける第二帝政期のパリ」I	
7	アドルノ『幻想曲風に』V	21	ベンヤミン「ボードレールにおける第二帝政期のパリ」II	
8	アドルノ『幻想曲風に』VI	22	ベンヤミン「ボードレールにおける第二帝政期のパリ」III	
9	アドルノ『幻想曲風に』VII	23	ベンヤミン「ボードレールにおけるいくつかのモチーフについて」I	
10	アドルノ『幻想曲風に』VIII	24	ベンヤミン「ボードレールにおけるいくつかのモチーフについて」II	
11	アドルノ『幻想曲風に』IX	25	ベンヤミン「ボードレールにおけるいくつかのモチーフについて」III	
12	関連文献の検討	26	ボードレール論関連断章の検討	
13	現代におけるアドルノの音楽美学とその意義	27	詩作における翻訳と批評の意義	
14	前期まとめと休暇中の課題の確認	28	一年間のまとめ	
【テキスト】				
テオドール・W・アドルノ『アドルノ音楽論集 幻想曲風に』岡田暁生、藤井俊之訳、法政大学出版局、2018年。 ヴァルター・ベンヤミン『パリ論／ボードレール論集成』浅井健二郎編訳、ちくま学芸文庫、2015年。 山口裕之編訳『ベンヤミン・アンソロジー』河出文庫、2011年。				
【参考書・参考資料等】				
西村誠他編『アドルノ美学解説——崇高概念から現代音楽・アートまで』花伝社、2019年。 『ボードレール全詩集I/II』阿部良雄訳、ちくま文庫、1998年。その他、参考になる文献を演習のなかで紹介します。				
【事前・事後学習、時間等】				
講読箇所を精読する(約2時間)。概要報告を担当する場合には、概要をレジュメにまとめる。担当しない場合には、質問したい点や議論したい論点などをピック・アップする。演習後は、議論の成果をまとめる(1時間)。				
【課題の種類・内容】				
講読箇所の概要報告、それに対するコメント、演習のテーマに関する小論文(4000字以上)。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講読箇所の概要報告は、演習の場で講評します。小論文は、コメントを付して返却します。				
【成績評価方法・基準】				
講読箇所の概要報告(20%)、それに対するコメント(10%)、詩の翻訳や批評に関する小論文(40%)、各回の演習への参加度(発言などにより評価:30%)。				
【履修上の注意】				
上記の計画は、受講者と相談のうえ、変更されることがあります。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	表象文化論特殊講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	松原知生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
ルネサンス末期イタリアにおける中世美術や古いイコンの再評価とその社会的背景について、シエナの事例を中心に考察する。				
【講義概要】				
中世以来、都市国家として繁栄を享受してきたイタリア中部のシエナ共和国は、16世紀になると、イタリア戦争や隣国フィレンツェとの戦い、国内における党派争いや無原罪懐胎説をめぐる論争など、さまざまな政治・宗教抗争に翻弄され、1555年に滅亡し、メディチ家を君主とするフィレンツェ公国に編入される。そうした中、中世の聖画像やアルカイックな絵画表現に対する信仰心や関心が高まり、新たな崇拜がプロモートされるとともに、同時代絵画の様式や図像にも反響を及ぼした。この講義では、この「イコンの転生」のプロセスをたどるとともに、美術史学やイメージ論における作品分析の方法論についても検討を試みる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	序論:「像」と「アート」の汽水域へ			
2	石の中のイコン:聖画像のための大理石タベルナクルムの制作と受容			
3	尼僧の手仕事?:「サンタ・マルタの修道女たち」再考			
4	白衣の画家:ジョヴァンニ・ディ・ロレンツォとカモッリーアの戦い			
5	聖母の子宮:ベッカフーミ作《聖三位一体と聖者たち》			
6	幻視の遠近法:同《シエナの聖女カテリーナの聖痕拝受》			
7	天のオクルス:同《玉座の聖パウロ》			
8	帝国と自由:ソドマのスペイン人礼拝堂装飾にみる皇帝礼賛と聖母崇拜			
9	闘争の表象/表象の闘争:ソドマによるロザリオ同信会のための2作品をめぐって			
10	タブローの中のイメージ:対抗宗教改革期シエナにおける絵画タベルナクルムの展開			
11	都市と絵画の防衛機制:ジョルジョ・ディ・ジョヴァンニとシエナ戦争			
12	亡国のパトス、喪のトポス:敗戦後のシエナ絵画における都市表象			
13	Apparizione/appropriazione:メディチ家支配初期のシエナにおけるフィレンツェ絵画			
14	結論:楕円の時空			
【テキスト】				
松原知生『転生するイコン:ルネサンス末期シエナ絵画と政治・宗教抗争』名古屋大学出版会、2021年(大学図書館指定図書)				
【参考書・参考資料等】				
講義中に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを事前・事後に読んで理解を深めること。(2時間程度)				
【課題の種類・内容】				
授業での発言や質問、講義の内容を踏まえたレポートの作成。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業での発言へのコメント、レポート添削。				
【成績評価方法・基準】				
毎回の授業への参加度約50%、期末レポート約50%により総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
上記の内容は変更することがある。テキストは高額であるため購入する必要はないが、希望者は著者割(2割引)で購入可。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	表象文化論演習		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	松原知生				
【講義の到達目標及びテーマ】					
①表象文化論・西洋美術史関連の外国語文献講読 ②受講生による研究や論文執筆の進展状況についての報告					
【講義概要】					
本演習では2つの実践を交互に進めていく。ひとつは外書講読で、表象文化論・西洋美術史(とりわけキリスト教美術)関連の外国語文献のうち、方法論的にみて参考になるものを選択し、それを受講生全員で輪読し、内容についてディスカッションを行なう。質の高い訳文が作成できれば、共訳として出版する。今年度のテキストとしては、ルネサンスにおける「祈念画」の成立について論じたリングボムによる古典的著作『礼拝画から説話画へ』(英文)をとり上げる予定だが、受講生の関心や専門とするテーマ・語学、人数などをふまえて、他の文献や別の言語(イタリア語、フランス語など)に変更する可能性がある。もうひとつは研究報告である。受講生がそれぞれの研究や論文執筆の進展状況について、映像資料とレジュメを用いて複数回発表し、質疑応答やコメントを行なう。最終的には期末レポートとして結実させることで、各自の研究のペースメーカーとして機能させる。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当 者)	No.	講義計画	(担当 者)
1	導入		15	導入	
2	第1クール:著者とその学的位置づけ		16	第3クール:著者とその学的位置づけ	
3	講読と翻訳		17	講読と翻訳	
4	作品と事実関係についての補足説明		18	作品と事実関係についての補足説明	
5	講読内容についてのディスカッション		19	講読内容についてのディスカッション	
6	訳文の作成		20	訳文の作成	
7	受講生による研究の進展状況についての発表①		21	受講生による研究の進展状況についての発表③	
8	第2クール:著者とその学的位置づけ		22	第4クール:著者とその学的位置づけ	
9	講読と翻訳		23	講読と翻訳	
10	作品と事実関係についての補足説明		24	作品と事実関係についての補足説明	
11	講読内容についてのディスカッション		25	講読内容についてのディスカッション	
12	訳文の作成		26	訳文の作成	
13	受講生による研究の進展状況についての発表②		27	受講生による研究の進展状況についての発表④	
14	まとめ		28	まとめ	
【テキスト】					
Sixten Ringbom, <i>Icon to Narrative. The Rise of the Dramatic Close-Up in Fifteenth-Century Devotional Painting</i> , Åbo 1965, Second Edition, Revised and Augmented, Doornspijk 1984.(コピーを配布する)					
【参考書・参考資料等】					
授業中に適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
テキストの予習と発表の準備、授業後の訳文チェックと原稿修正(2時間程度)。					
【課題の種類・内容】					
毎回の事前読解、訳文作成、発表、レポート。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
発表へのコメント、訳文やレポートの添削。					
【成績評価方法・基準】					
毎回の授業への参加度約40%、発表30%、期末レポート約30%により総合的に評価する。					
【履修上の注意】					
上記の内容は変更することがある。少なくとも英語で専門書のある程度読みこなすことのできる語学力と読解力が求められる。文献講読の予習をしていない場合は欠席とみなされるので注意。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	欧米社会文化論研究実習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	松原知生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
海外における美術作品の調査や関連文献収集のためのフィールドワークを立案・実行し、その成果を論文執筆へとつなげる。				
【講義概要】				
海外に所在する美術館や博物館での作品調査と写真撮影、図書館や資料館での書籍・資料収集を行ない、論文執筆へと活かす。実施前には教員と相談して計画書を作成し、実施後は報告書を執筆してその成果を具体的に明らかにする。以下の計画はサンプル。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	フィールドワーク1日目:大聖堂での調査と写真撮影			
2	同2日目:教区聖堂での調査と写真撮影			
3	同3日目:修道院およびその付属聖堂での調査と写真撮影			
4	同4日目:市庁舎(政庁)での調査と写真撮影			
5	同5日目:君主の宮殿での調査と写真撮影			
6	同6日目:貴族や商人の邸宅建築での調査と写真撮影			
7	同7日目:郊外の別荘建築での調査と写真撮影			
8	同8日目:国立絵画館での調査と写真撮影			
9	同9日目:市立美術館での調査と写真撮影			
10	同10日目:個人コレクションでの調査と写真撮影			
11	同11日目:国立公文書館での資料収集			
12	同12日目:市立図書館での資料収集			
13	同13日目:大学図書館での資料収集			
14	同14日目:書店・古書店での美術書探索			
【テキスト】				
なし。				
【参考書・参考資料等】				
実施計画書の作成時に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
実施計画書(事前)と実施報告書(事後)の作成。				
【課題の種類・内容】				
実施計画書と実施報告書をレポートとして提出するとともに、実習成果を映像を交えて発表する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
実施計画書作成時の指導、実施中のメールなどによるアドバイス、発表および実施報告書へのコメント。				
【成績評価方法・基準】				
実施計画書30%、発表30%、実施報告書40%により総合的に判断する。				
【履修上の注意】				
フィールドワークは2週間以上(または90時間以上)行なうこと。実施が2年度にわたる場合、累積して上記の時間数を満たせば単位認定が可能である。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	表象文化論研究指導		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	松原知生				
【講義の到達目標及びテーマ】					
表象文化論・美術史関連の論文作成の方法論を実践的に学ぶ。					
【講義概要】					
テーマ設定から、資料収集、文献読解、方法論的検討、構想、実際の執筆と推敲にいたる論文の作成方法の諸段階を実践的に学ぶ。以下の講義計画は授業で扱うトピックを挙げたもので、必ずしも時間軸に沿って進むとは限らない。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当 者)	No.	講義計画	(担当 者)
1	導入		15	導入	
2	テーマ設定1:個人的関心と学問的・社会的意義		16	構想1:読書メモからのアウトライン構築	
3	テーマ設定2:先行研究からの連続と飛躍		17	構想2:骨組みと肉付け	
4	資料収集1:文献情報の検索		18	執筆1:序論	
5	資料収集2:仮参考文献リストの作成		19	執筆2:第1章	
6	資料収集3:写真と画像		20	執筆3:第2章	
7	文献読解1:一次資料		21	執筆4:第3章	
8	文献読解2:二次資料		22	執筆5:結論	
9	途中経過発表1		23	途中経過発表2	
10	方法論的考察1:様式論		24	推敲1:モニターと紙媒体で行なう意義	
11	方法論的考察2:図像学		25	推敲2:タイトルと目次の決定へ	
12	方法論的考察3:機能とコンテキスト		26	註と図版の作成	
13	方法論的考察4:イメージ人類学		27	体裁の確認、提出、査読対策	
14	まとめ		28	まとめ	
【テキスト】					
なし。					
【参考書・参考資料等】					
授業中に適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
テキストの予習と発表の準備、授業後の文章チェックと修正(2時間程度)。					
【課題の種類・内容】					
発表と期末レポート。□					
【課題に対するフィードバックの方法】					
発表へのコメント、レポートへの添削。					
【成績評価方法・基準】					
毎回の授業への参加度約40%、発表30%、期末レポート約30%により総合的に評価する。□					
【履修上の注意】					
上記の内容は変更することがある。「途中経過発表」以外にも、受講者には頻繁に発表を求める。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	表象文化論論文作成指導	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	松原知生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
博士論文執筆に関連する外国語文献の読解。				
【講義概要】				
中世シエナ美術、とりわけ画家アンブロジーヨ・ロレンツェッティや、同時代の修道院美術に関するイタリア語の一次・二次文献を講読し、その内容についてディスカッションを行なう。まずは昨年度からの続きでデツラ・ヴァッレ『シエナ書簡』を読み、その後のテキストについては議論の中で決定する。以下の講義計画は変更の可能性があり、また必ずしも時間軸に沿って進むとは限らない。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	導入口			
2	第1クール：著者とその学的位置づけ口			
3	講読と翻訳			
4	作品と事実関係についての補足説明口			
5	講読内容についてのディスカッション			
6	訳文の作成			
7	受講生による研究の進展状況についての発表①			
8	第2クール：著者とその学的位置づけ口			
9	講読と翻訳			
10	作品と事実関係についての補足説明口			
11	講読内容についてのディスカッション			
12	訳文の作成			
13	受講生による研究の進展状況についての発表②			
14	まとめ			
【テキスト】				
G. Della Valle, <i>Lettere sanesi</i> , vol. II, Roma 1785.				
【参考書・参考資料等】				
授業中に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキスト講読の予習、訳文や原稿の修正（2時間程度）				
【課題の種類・内容】				
毎回の発表と期末レポート。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
翻訳や発表へのコメント、訳文やレポートの添削。				
【成績評価方法・基準】				
平時の授業への参加度約50%と期末レポート約50%で総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
最初の2回のみ学部のオムニバス授業と時間が重複するため、受講生と協議の上、別の時間帯に実施する予定。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	松原知生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
国際文化研究(表象文化論・美術史研究)の最新の動向を踏まえ、専門的知識や方法論を習得するとともに、研究倫理や研究者としての態度・意識を養う。				
【講義概要】				
教員による表象文化論・美術史研究の具体的事例(ルネサンス期イタリアの宗教画、日本近代骨董文化論など)を紹介しながら、国際文化研究における基礎概念や方法論の歴史と意義、研究動向、今後の課題などについて検討する。授業でとり上げる主なトピックは以下の講義計画の通り。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	導入			
2	国際文化研究(表象文化論・美術史)における基礎概念の整理と応用			
3	国際文化研究(表象文化論・美術史)における文献・作品調査のあり方			
4	国際文化研究(表象文化論・美術史)における方法論の歴史的背景			
5	国際文化研究(表象文化論・美術史)の方法論と隣接諸学との関係			
6	国際文化研究(表象文化論・美術史)の国内動向			
7	国際文化研究(表象文化論・美術史)の海外における動向(イタリア)			
8	国際文化研究(表象文化論・美術史)の海外における動向(イタリア以外)			
9	国際文化研究(表象文化論・美術史)における最新の事例(教員による著書や論文)の紹介			
10	国際文化研究(表象文化論・美術史)における最新の事例(教員以外)の検討			
11	国際文化研究(表象文化論・美術史)における研究倫理			
12	学術雑誌への投稿や学会発表のための具体的指針			
13	国際文化研究(表象文化論・美術史)の将来像と今後の課題			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし。				
【参考書・参考資料等】				
松原知生『物数寄考:骨董と葛藤』平凡社、2014年 同『転生するアイコン:ルネサンス末期シエナ絵画と政治・宗教抗争』名古屋大学出版会、2021年				
【事前・事後学習、時間等】				
参考書を事前・事後に読んで理解を深めること。(2時間程度)□				
【課題の種類・内容】				
発表とレポート。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表へのコメント、レポート添削。				
【成績評価方法・基準】				
毎回の授業への参加度約40%、発表30%、期末レポート約30%により総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
上記の内容は変更することがある。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	表象メディア論特殊講義II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	栗原 詩子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教音楽における「受難曲」ジャンルの諸相について、ヨーロッパの伝統のみならず多文化主義の観点を交えて学ぶ。				
【講義概要】				
バロックの名曲から開始し、ルネサンスの源流へと遡って、徐々に耳を馴らしながら朗唱・歌唱の語句を聞き取り、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の土壌としての音楽表象について考える。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	●18世紀の作曲行為と19世紀のバロック音楽「ルネサンス」 ●バッハ《マタイ受難曲》BWV244 第1部導入合唱とコーラル			
2	●受難曲の範囲 ●バッハ《マタイ受難曲》BWV244 第1部「祭司長たちの合議」「香油を注ぐベタニアの女」			
3	●通作受難曲と総合受難曲 ●バッハ《マタイ受難曲》BWV244 第2部 「シオンの娘とエルサレムの娘」「ペトロの否認」			
4	●ユダヤの民の描かれ方 ●バッハ《マタイ受難曲》BWV244 第2部「大祭司の審問」「判決」			
5	●十字架上のイエスの7つの言葉 ●バッハ《マタイ受難曲》BWV244 第2部「十字架上のイエス」「イエスの死」			
6	●ヨハネ福音書の特殊性 ●バッハ《ヨハネ受難曲》BWV245 冒頭合唱曲			
7	●バッハの「ヨハネ受難曲」に向けられた批判 ●バッハ《ヨハネ受難曲》BWV245 第5曲「主の祈り」			
8	●バッハ《ヨハネ受難曲》BWV245 第7, 9, 13, 19, 20曲(4声域の各アリア)			
9	●バッハ《ヨハネ受難曲》BWV245 第22曲(コーラル)、第24, 30, 32曲(低声域のアリア)			
10	●バッハ《ヨハネ受難曲》BWV245 第34, 35曲(高声域のアリア)			
11	●後期ルネサンスの応唱受難曲(1)——オランダ・ディ・ラッソ(1530-1594)《マタイ受難曲》			
12	●後期ルネサンスの応唱受難曲(2)——トマス・ルイス・デ・ヴィクトリア(1548-1611)《ヨハネ受難曲》			
13	●盛期ルネサンスの応唱受難曲——クロダン・ド・セルミジ(1490s-1562)の受難曲			
14	●盛期ルネサンスの多部分から成る受難曲——ジョスカン・デ・プレ(1450s-1521)《O Domine Jesu Christe》			
【テキスト】				
なし。ただし、読解テキストと鑑賞用音源は、Moodleより指示する。				
【参考書・参考資料等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 磯山雅「マタイ受難曲」東京書籍、1994。 ・ 磯山雅「ヨハネ受難曲」筑摩書房、2020。 ・ 金澤正剛「キリスト教と音楽」音楽之友社、2007。 ・ ラインハルト(Reinhartz, Adele). 宮崎修二訳「ヨハネ福音書の中のユダヤ教」("Judaism in the Gospel of John." 2009). 『インタープリテーション』85号. 2011. 71-89. ・ Marshall, Robert L. "Redeeming the St. John Passion: How modern sensitivity has clouded Bach's masterpiece." Commentary. 134(1). 2012. 36-39. ・ Rohrbacher, Stefan. "The Charge of Deicide: An Anti-Jewish Motif in Medieval Christian Art." Journal of Medieval History. 1991. 297-321. 				
【事前・事後学習、時間等】				
Moodleにアップロードされる毎回の授業資料を熟読し、さらに音源を聞いて、授業に臨むこと。これを行ってくることを前提として授業を進めることについて了解したうえで、授業に臨むこと。(3時間程度)				
【課題の種類・内容】				
Moodle上に提示される小テスト課題				
【課題に対するフィードバックの方法】				
回答内容について、授業時間を用いて、匿名方式でコメントする。				
【成績評価方法・基準】				
講義への参加状況50%、小テスト課題50%				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	表象メディア論演習II		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			後期		
担当教員名	栗原詩子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
宗教映画学の基礎力を養うことを目的とする。					
【講義概要】					
欧米社会で広く共有されているキリスト教聖書の人物像・事象・字句・物語構造が、多様なジャンルの映画に象徴的に埋め込まれている様子を理解するために、ラインハルトの著作(原著2013/邦訳2018)を読解する。また、実例に沿って基礎的材料を整理し、鑑賞の方向づけについて意見交換する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	旧約叙事詩映画におけるヘブライ文化的要素と置換神学的表現(第2章)——『ルツの物語』(1960)	教員	15	現代的再現の形をとる受難劇もの(第5章)——『モントリオールのジーザス』(1989)	教員
2		学生	16		学生
3	旧約叙事詩映画におけるヘブライ文化的要素と置換神学的表現(第2章)——『十戒』(1956)、『プリンス・オブ・エジプト』(1998)	教員	17	「反転」のモチーフ(第6章)——『イングリシアス・バスターズ』(2009)	教員
4		学生	18		学生
5		学生	19		学生
6	旧約叙事詩映画におけるヘブライ文化的要素と置換神学的表現(第2章)——『ダビデとバトシェバ』(1951)	教員	20	「聖書を引用する悪玉」(第8章)——『ケープ・フィアー』(1991)、『パルプ・フィクション』(1994)	教員
7		学生	21		学生
8	イエス映画への二つのアプローチ(第3章)——『奇跡の丘』(1964)	教員	22	キリスト的人物像の諸モチーフ(第7章)——『ショーシャンクの空に』(1994)、『グラン・トリノ』(2009)	教員
9		学生	23		学生
10	イエス映画への二つのアプローチ(第3章)——『最後の誘惑』(1988)	教員	24	終末世界前映画と終末世界映画(第9章)——『ディープ・インパクト』(1998)	教員
11		学生	25		学生
12	古代活劇映画における中東和平への夢(第4章)——『ベン・ハー』(1959) その「解釈学的遊行」(クライツァー論文)	教員	26	終末世界後映画(第9章)——『ブレードランナー』(1982)	教員
13		学生	27		学生
14		学生	28		学生
【テキスト】					
アデル・ラインハルト著、栗原詩子訳『ハリウッド映画と聖書』みすず書房、2018。 大学附属図書館の電子テキストとなっている。					
【参考書・参考資料等】					
岡田温司『映画とキリスト』みすず書房、2017。 Adele Reinhartz, Bible and Cinema: An Introduction. Routledge, 2013.(テキストの原書)					
【事前・事後学習、時間等】					
事前・事後を問わず、論点の対象となる作品を可能な限り鑑賞すること。 事後学習として、発表時に教員や受講生から出された様々な疑問や問題点を整理し、今後の課題を考察すること。					
【課題の種類・内容】					
論点の内容理解上で、作品鑑賞は必須である。テキストの該当箇所では取り上げられている芸術作品に、積極的にふれること。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
対話を通じて発展的に考察する。各回の読解箇所について復習をする中で、各自、考察を深めること。					
【成績評価方法・基準】					
ハンドアウトの作成と研究発表(60点)。 研究発表に対する意見や質問(30点)。 出席状況と出席態度(10点)。					
【履修上の注意】					
当科目は、後期に週2校時をあてて開講する。昼開講受講者は火曜4-5限、夜開講受講者は土曜4-5限となる。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	欧米社会文化論研究実習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	栗原 詩子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
研究書についての「書評」の読解と構造把握を通じて、書評論文の書き方を学ぶ。				
【講義概要】				
書評においては、当該書籍の要約・評価とともに、当該領域の研究動向に対する適切な参照が必要である。書評の諸事例を参照しながら、その技術について議論する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	当該研究書を要約・評価することについての概要説明			
2	事例(1) メルキュール・デ・ザールに掲載の書評2点(ペルトナー「哲学としての美学」、ハリリ「ホモ・デウス」)			
3	事例(2) 日本映像学会「映像学」に掲載の書評2点(三浦・長谷「映像文化の社会学」、Bordwell「The Rhapsodes」)			
4	事例(3) Film-Philosophy 22(2)に掲載の書評2点(Carruthers「Doing Time」、Hongisto「Soul of the Documentary」)			
5	当該研究領域の動向に言及することについての概要説明			
6	事例(4) Film-Philosophy 22(3)に掲載の書評1点と当該書籍の概略検討(Lindner「Film Bodies」)			
7	事例(5) 書評1点と当該書籍の概略検討(対象未定)			
8	事例(6) Music, Sound & the Moving Image 7(1)に掲載の書評1点(Inglist ed.「Popular Music and Television in Britain」)			
9	研究書評のさまざまな形態についての概要説明			
10	事例(7) Music, Sound & the Moving Image 6(2)に掲載の書評1点(メディア研究ガイド2点を並行して扱った書評)			
11	事例(8) Journal of Popular Film & Television 44(1) に掲載の書評1点(Gengaro「Listening to Stanley Kubrick」)			
12	事例(9) Frames Cinema Journal 8に掲載の書評1点と当該書籍の概略検討(Rositzka「David Bowie: Critical Perspectives」)			
13	事例(10) Frames Cinema Journal 11に掲載の書評1点と当該書籍の概略検討(Chen「Mosaic Space and Mosaic Auteurs」)			
14	学生による書評案(和文)の検討			
【テキスト】				
大学図書館等でアクセス可能なオンライン・ジャーナルの中から指定して、Moodleで提示する。				
【参考書・参考資料等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・共同通信文化部(編)「書評大全」(三省堂、2015) ・柄谷行人「柄谷行人書評集」(読書人、2017) 				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業各回に扱う書評に、事前に目を通し、問題点やキーワードを調べる。 ・自身の研究領域における代表的な学術雑誌の書評を多数読解すること。 				
【課題の種類・内容】				
各回の該当書評を読解すること。学術雑誌に掲載された書評1点を紹介すること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
対話を通じて発展的に考察する。□				
【成績評価方法・基準】				
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の研究領域における代表的な欧文学術雑誌の選定・紹介(口頭による) 35点 ・その学術雑誌に掲載された書評1点の説明(口頭による) 35点 ・出席中の発言 30点 				
【履修上の注意】				
大学院生には、各自の研究領域に没頭するだけでなく、各自の研究領域に関連する多種多様な論点にキャッチアップしつづける習慣を身につけてほしいと願っている。事前・事後学習ならびに授業への参加にあたっては、そのことを念頭においてほしい。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	栗原 詩子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では、博士後期課程において各自の専門研究の参考となるように、国際文化研究(表象メディア論)の最新の動向に関する知識・技能を習得する。研究者として成長していく上で必要となる意識と態度を養う。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるため、必要となる学修課題に取り組み、習得した知識を各自の具体的な研究法に結びつけ、自律的な研究者として自らの研究を展開できるよう指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究(表象メディア論)における歴史的基礎概念の整理			
2	国際文化研究(表象メディア論)における新時代的基礎概念の整理			
3	国際文化研究(表象メディア論)における事象的基礎概念の整理			
4	国際文化研究(表象メディア論)の諸潮流(1)——トロント学派、フランクフルト学派			
5	国際文化研究(表象メディア論)の諸潮流(2)——カルチュラル・スタディーズ、オーディエンス研究			
6	国際文化研究(表象メディア論)の諸潮流(3)——ポストメディア状況における諸研究			
7	国際文化研究(表象メディア論)における研究と執筆の倫理			
8	国際文化研究(表象メディア論)と周辺領域の関係(1)——身体・遊び			
9	国際文化研究(表象メディア論)と周辺領域の関係(2)——アーカイブ			
10	国際文化研究(表象メディア論)と周辺領域の関係(3)——政治・資本			
11	国際文化研究(表象メディア論)における新たな研究法の検討			
12	学術雑誌への投稿とガイドラインの遵守			
13	国際文化研究(表象メディア論)領域における研究者の在り方			
14	国際文化研究(表象メディア論)における今後の課題□			
【テキスト】				
門林岳史・増田展大編『クリティカル・ワード メディア論——理論と歴史からくいまが学べる』(フィルムアート社, 2021)				
【参考書・参考資料等】				
授業内に適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
授業前に教科書の指定箇所を熟読して要点を整理し、議論の発端となる質問を考えておくこと。(各回40分) 授業後には、授業中に紹介された関連文献を熟読した上で、Moodle上の設問に回答すること。(各回60分)				
【課題の種類・内容】				
各回の読解箇所に関する設問をMoodle上に提示する。選択式と記述式の2面からなる設問により、復習をうながす。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
受講者の回答内容をふまえて、次回授業で匿名方式でコメントする。				
【成績評価方法・基準】				
講義への参加状況50%、設問回答状況50%□				
【履修上の注意】				
なし				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	近代アメリカ論殊講義Ⅱ	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		後期		
担当教員名	朝立康太郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
アメリカ合衆国の独立と建国のプロセスを政治文化史の観点から検討する。				
【講義概要】				
講義はイリジャ・グールド『アメリカ帝国の胎動』(2016)の輪読を中心とします。原則として受講者は各回に最低1回は担当者となり、テキスト読解と要約作業を行ってまいります。この担当者の発表に基づいて受講者全員で討議することで、ディスカッション技術の向上も目指します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション			
2	序: 諸国家の中の国家			
3	第1章: ヨーロッパの辺境①: ヨーロッパ国際条約の「共和国」/ 辺境の民を統治する苦悩			
4	第1章: ヨーロッパの辺境①: 七年戦争—アメリカとヨーロッパの一体化の開始			
5	第2章: 奴隷制の法①: アメリカの自由と奴隷制/ 奴隷制の普遍性			
6	第2章: 奴隷制の法②: 奴隷制を巡る国際法秩序の確立			
7	第3章: パックス・ブリタニカ①: 平和を希求する海の改革			
8	第3章: パックス・ブリタニカ②: 北米に平和を/ 想像の帝国			
9	第4章: 独立①: 独立のための戦いという困難/ 「地上の列強」のなかで			
10	第4章: 独立②: 合衆国憲法が切り開いた道/ 「国際条約に値する国」になること			
11	第5章: 奴隷所有共和国①: 奴隷制を巡る地理的な法秩序の変容			
12	第5章: 奴隷所有共和国②: 奴隷制を巡る国家主権の確立/ 奴隷所有共和国の確立			
13	第6章: 新世界と旧世界①: イギリスの影/ 落日のスペイン帝国			
14	第6章: 新世界と旧世界②: 文明と野蛮の間/ アメリカの平和			
【テキスト】				
イリジャ・グールド(森丈夫ほか訳)『アメリカ帝国の胎動—ヨーロッパ国際秩序とアメリカ独立—』(彩流社、2016年)				
【参考書・参考資料等】				
講義中に適宜紹介します。				
【事前・事後学習、時間等】				
各回のテキスト該当箇所を精読すること。				
【課題の種類・内容】				
担当者は必要に応じてレジュメなどの発表資料を作成すること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義中に適宜行います。				
【成績評価方法・基準】				
講義への参加度(事前学習や講義中における理解度の確認等)と期末レポートによって評価します。				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	近代アメリカ論演習 I	通年・前期・後期		単位数	使用言語
		後期		4	日本語
担当教員名	朝立康太郎				
【講義の到達目標及びテーマ】					
アメリカ史における人種問題の発生と展開の特質について検討する。					
【講義概要】					
講義は、川島正樹『アフターティヴ・アクションの行方』の輪読を中心とします。原則として受講者は各回に最低1回は担当者となり、テキスト読解と要約作業を行っていただきます。この担当者の発表に基づいて受講者全員で討議することで、ディスカッション技術の向上も目指します。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	イントロダクション		15	イントロダクション	
2	「社会的構築物としての人種」と近代世界システム① —科学的に否定された「人種」—		16	「貧困との戦争」から「優先枠設定」へ① —「都市暴動」と「結果の平等」への試み—	
3	「社会的構築物としての人種」と近代世界システム② —近代と奴隷制—		17	「貧困との戦争」から「優先枠設定」へ② —バス通学論争と「白人の逃亡」—	
4	「社会的構築物としての人種」と近代世界システム③ —変容するが消えない「人種」—		18	「貧困との戦争」から「優先枠設定」へ③ —ニクソン政権下での「優先枠設定」の導入—	
5	奴隷制が支えた初期アメリカの発展① —北米における奴隷制の誕生—		19	20世紀後半の新移民流入と多様性の称揚① —「新しい」新移民—	
6	奴隷制が支えた初期アメリカの発展② —独立宣言と奴隷制の共存—		20	20世紀後半の新移民流入と多様性の称揚② —「人種」と「文化」—	
7	奴隷制が支えた初期アメリカの発展③ —初期共和国の発展を支えた奴隷制—		21	20世紀後半の新移民流入と多様性の称揚③ —なぜアメリカでは「人種」観念が根深いか—	
8	奴隷制廃止から「ジム・クロー」へ① —奴隷制と憲法の修正—		22	「逆差別」と「肌の色の無差別」による差別正当化① —過去の不正の解消から未来の多様性の準備へ—	
9	奴隷制廃止から「ジム・クロー」へ② —「ジム・クロー」—		23	「逆差別」と「肌の色の無差別」による差別正当化② —「自己責任」論と競争原理の中で—	
10	奴隷制廃止から「ジム・クロー」へ③ —3つの道—		24	「逆差別」と「肌の色の無差別」による差別正当化③ —「肌の色の無差別」対「肌の色へのこだわり」—	
11	差別隔離体制の動揺と法的平等の達成① —「大移動」とゲットーの形成—		25	賠償請求運動と自立化促進① —州レベルで廃止される積極的差別是正措置—	
12	差別隔離体制の動揺と法的平等の達成② —アメリカも外圧で変わった？—		26	賠償請求運動と自立化促進② —「自助努力」というタブーの克服—	
13	差別隔離体制の動揺と法的平等の達成③ —非暴力的社会変革の高揚—		27	賠償請求運動と自立化促進③ —自立化促進努力—	
14	差別隔離体制の動揺と法的平等の達成④ —百年遅れの社会的平等の達成—		28	賠償請求運動と自立化促進④ —人を区別する新たな境界線とは？—	
【テキスト】					
川島正樹『アフターティヴ・アクションの行方—過去と未来に向き合うアメリカ—』(名古屋大学出版会、2014年)					
【参考書・参考資料等】					
講義中に適宜紹介します					
【事前・事後学習、時間等】					
各回のテキスト該当箇所を精読すること。					
【課題の種類・内容】					
担当者は必要に応じてレジュメなどの発表資料を作成すること。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
講義中に適宜行います					
【成績評価方法・基準】					
講義への参加度(事前学習や講義中における理解度の確認等)と期末レポートによって評価します。					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	近代キリスト教文化史論特殊講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期		
担当教員名	塩野和夫			
【講義の到達目標及びテーマ】				
アメリカの海外宣教団体が報道した19世紀日本の記事を読み分析する。講義への積極的参加とディスカッション、研究発表によって参加し、研究方法を習得することが求められる。				
【講義概要】				
19世紀日本の報道記事を様々な観点から考察する。なお、コロナの感染状況によってオンラインの授業となる。その場合はムードルとメール、およびテレビ会議によって授業を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション			
2	日本(1870年9月号)			
3	日本ミッション(1870年9月号)			
4	日本への宣教(1871年7月号)			
5	日本ミッション(1871年10月号)			
6	日本ミッション(1872年2月号)			
7	日本ミッション(1872年3月号)			
8	第1回研究発表			
9	日本ミッション(1872年9月号)			
10	日本ミッション(1872年11月号)			
11	日本ミッション(1872年12月号)			
12	日本ミッション(1873年1月号)			
13	日本における1年一変化(1973年4月号)			
14	第2回研究発表			
【テキスト】				
塩野和夫『禁教国日本の報道』(雄松堂、2004年)				
【参考書・参考資料等】				
適宜、紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前にテキストを読んでおくこと。事後には講義及びディスカッションの内容を復習する。事前事後にそれぞれ1時間を要する。				
【課題の種類・内容】				
研究発表のために課題を見出す必要がある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
適宜、指導する。				
【成績評価方法・基準】				
通常点(40点)と研究発表(60点)による。				
【履修上の注意】				
特になし。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	近代キリスト教文化史論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	塩野和夫				
【講義の到達目標及びテーマ】					
演習に参加する大学院生の研究対象を題材として、研究テーマに関する動機・先行研究の分析・資料収集・問題点の整理と展開について議論を重ねて行く。参加者には着実な論文の作成が求められる。					
【講義概要】					
講義計画に従って進めていく。なお、コロナの感染状況によってオンラインで演習をすることがある。その場合は、ムードルとメール、及びテレビ会議により進めていく。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション	塩野	15	オリエンテーション	塩野
2	今、論文について考えていること	1年生A	16	関連文献の発表	1年生A
3	今、論文について考えていること	1年生B	17	関連文献の発表	1年生B
4	論文のテーマ・動機・方法論	2年生A	18	修士論文第3章の発表	2年生A
5	論文のテーマ・動機・方法論	2年生B	19	修士論文第3章の発表	2年生B
6	討論1	塩野	20	討論4	塩野
7	修士論文第1章の発表	2年生A	21	修士論文第4章の発表	2年生A
8	修士論文第1章の発表	2年生B	22	修士論文第4章の発表	2年生B
9	討論2	塩野	23	討論5	塩野
10	先行研究の発表	1年生A	24	論文の動機とテーマ	1年生A
11	先行研究の発表	1年生B	25	論文の動機とテーマ	1年生B
12	修士論文第2章の発表	2年生A	26	修士論文の残された課題	2年生A
13	修士論文第2章の発表	2年生B	27	修士論文の残された課題	2年生B
14	討論3	塩野	28	討論6	塩野
【テキスト】					
適宜、紹介する。					
【参考書・参考資料等】					
適宜、紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
発表に向けた準備、発表後の復習、それぞれに2時間を要する。					
【課題の種類・内容】					
発生してくる課題に柔軟に対応することが求められる。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
基本的には文献の調査となる。					
【成績評価方法・基準】					
受講態度(50点)と研究発表(50点)によって、総合的に判断する。					
【履修上の注意】					
特になし。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	近代キリスト教文化史論研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	塩野和夫				
【講義の到達目標及びテーマ】					
演習に参加する大学院生の研究対象を題材として、研究テーマに関する動機・先行研究の分析・資料収集・問題点の整理と展開に議論を重ねて行く。参加者には着実な論文の執筆が求められる。					
【講義概要】					
第2論文と第3論文の執筆を進める。なお、コロナの感染状況によってオンラインの演習となる。その場合は、ムードルとメール、テレビ会議によって内容を深めていく。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション	塩野	15	オリエンテーション	塩野
2	第2論文の動機	大学院生	16	第3論文の動機	大学院生
3	第2論文の方法論	大学院生	17	第3論文の方法論	大学院生
4	第2論文の序論	大学院生	18	第3論文の第1章(1)	大学院生
5	第2論文の第1章(1)	大学院生	19	第3論文の第1章(2)	大学院生
6	第2論文の第1章(2)	大学院生	20	第3論文の第2章(1)	大学院生
7	第2論文の第2章(1)	大学院生	21	第3論文の第2章(2)	大学院生
8	第2論文の第2章(2)	大学院生	22	討論3	塩野
9	討論1	塩野	23	第3論文の第3章(1)	大学院生
10	第2論文の第3章(1)	大学院生	24	第3論文の第3章(2)	大学院生
11	第2論文の第3章(2)	大学院生	25	第3論文の第4章(1)	大学院生
12	第2論文の第4章(1)	大学院生	26	第3論文の第4章(2)	大学院生
13	第2論文の第4章(2)	大学院生	27	討論4	塩野
14	討論2	塩野	28	第4論文の課題	大学院生
【テキスト】					
適宜、紹介する。					
【参考書・参考資料等】					
適宜、紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
発表準備と発表後にそれぞれ2時間を要する。					
【課題の種類・内容】					
発生してくる課題に柔軟に対応することが求められる。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
基本的には文献の調査となる。					
【成績評価方法・基準】					
研究発表を中心に判断する。					
【履修上の注意】					
特になし。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	塩野和夫			
【講義の到達目標及びテーマ】				
博士後期課程における学修の基礎として国際文化研究(キリスト教史)の近年の動向を踏まえ、必要となる研究法に関する知識・技能を学びながら、専門的知識の習得を目的とする。併せて研究倫理に関する理解を深め、研究者として成長していく上で必要な意識と態度を獲得する。				
【講義概要】				
博士後期課程における研究を進展させるために必要となる学修課題に取り組む。習得した知識を自分自身の具体的な研究方法に結び付け、自律的な研究者として研究活動を展開できるように指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション			
2	国際文化研究(キリスト教史)における基本的概念の整理と応用			
3	国際文化研究(キリスト教史)と周辺領域の関係			
4	国際文化研究(キリスト教史)における歴史的背景と意義			
5	国際文化研究(キリスト教史)における国内の動向			
6	国際文化研究(キリスト教史)における海外の動向			
7	前半に関する研究発表			
8	国際文化研究(キリスト教史)における研究者の役割と研究倫理			
9	国際文化研究(キリスト教史)における最近の研究事例			
10	国際文化研究(キリスト教史)における新たな研究方法			
11	学術雑誌への投稿とガイドラインの順守			
12	自律的学習者としての研究者の在り方			
13	国際文化研究(キリスト教史)の将来像と今後の課題			
14	後半に関する研究発表			
【テキスト】				
塩野和夫「近代化する九州を生きたキリスト教」(教文館、2012)				
【参考書・参考資料等】				
適宜、指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解した上で授業に臨むこと。(1.5時間程度)				
【課題の種類・内容】				
各自の研究に利用できるようにするためにレポート及び口頭発表を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の意見に対しては注意し、レポートに対してはコメントする。				
【成績評価方法・基準】				
口頭発表(50点)レポート(50点)				
【履修上の注意】				
自己のスケジュール管理と健康管理に努めること。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	キリスト教思想論特殊講義II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	宮平望			
【講義の到達目標及びテーマ】				
主として古代のギリシャ・ローマ文化とその派生文化である欧米文化の影響下に形成されたアメリカのキリスト教神学思想をその同時代の一般思想との関連で再考察することを目的とします。また、文献の読解力を培います。				
【講義概要】				
テキストに基づいて、ディズニー変形譚の中の恋愛譚、家族譚、友情譚、空想譚、聖書譚について、世俗化、福音、信仰という主題に基づいて分析します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	第一回＝序章 ディズニー変形譚研究の歴史			
2	第二回＝序章 ディズニー変形譚研究の方法			
3	第三回＝第一章 恋愛譚「仕えるプリンセス『白雪姫』」			
4	第四回＝第一章 恋愛譚「信じるプリンセス『シンデレラ』」、「眠れるプリンセス『眠れる森の美女』」			
5	第五回＝第二章 家族譚「娘の身代わり『リトル・マーメイド』」、「父の身代わり『美女と野獣』」			
6	第六回＝第二章 家族譚「子の身代わり『ライオン・キング』」、「姉の身代わり『アナと雪の女王』」			
7	第七回＝第三章 友情譚「ランプの召使と人の友情『アラジン』」			
8	第八回＝第三章 友情譚「おもちゃたちと人の友情『トイ・ストーリー3』」、「モンスターズと人の友情『モンスターズ・インク』」			
9	第九回＝第四章 空想譚「旅物語『ピーター・パン』」、「夢物語『ふしぎの国のアリス』」			
10	第十回＝第五章 聖書譚「サムソンの話『塔の上のラプンツェル』」			
11	第十一回＝第五章 聖書譚「落穂拾いの話『くまのプーさん～イースター・エッグ・ハント』」、「放蕩息子の話『ファインディング・ニモ』」			
12	第十二回＝結章 「影の聖書」としてのディズニー変形譚			
13	第十三回＝まとめ1(恋愛譚、家族譚、友情譚)			
14	第十四回＝まとめ2(友情譚、空想譚、聖書譚、影の聖書)			
【テキスト】				
宮平望著『ディズニー変形譚研究 世俗化された福音への信仰』(新教出版社, 2020)を使用しますので、入手しておいてください。				
【参考書・参考資料等】				
テキスト内の文献表から、授業中適宜指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストに基づいて毎回予習・復習をしておいてください。毎回100分程度。テキストやその文献などを手がかりに興味のある事柄を各自で調べ、最後にレポートを一回(字数は自由)提出します。				
【課題の種類・内容】				
教科書・参考書・レポートの該当箇所の用語の読み方や意義を調べておいてください。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に該当箇所の解説を適宜行う。				
【成績評価方法・基準】				
講義に対する取り組み(講義への討論参加を約4割、最後のレポートを約6割)を総合的に判断して評価します。				
【履修上の注意】				
変形譚に対する自分なりの見解を明確にしておく必要があります。適宜、 https://miyahiranozomuhome.wixsite.com/mysite (宮平望のホームルーム)を参照すること。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	キリスト教思想論演習 II		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	宮平望				
【講義の到達目標及びテーマ】					
本講義は、主として古代のギリシャ・ローマ文化とその派生文化の影響下に形成された欧米思想を、テキストの聖書各文書に基づいて欧米圏や日本の文化というコンテキストの中で再考察することを目的とします。また、文献の解釈力を培います。					
【講義概要】					
テキストの各章に基づいて、新約聖書の福音書、手紙、預言書といった様々な文学領域に渡る内容を広く取り扱います。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	第一回＝オリエンテーション1 新約聖書の言語について	宮平望	15	第十五回＝教科書『コリント人への手紙 私訳と解説』	宮平望
2	第二回＝オリエンテーション2 新約聖書の構造について	宮平望	16	第十六回＝『コリント人への手紙 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望
3	第三回＝教科書『マタイによる福音書 私訳と解説』	宮平望	17	第十七回＝教科書『ガラテヤ人・エフェソ人・フィリピ人・コロサイ人への手紙 私訳と解説』	宮平望
4	第四回＝『マタイによる福音書 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望	18	第十八回＝『ガラテヤ人・エフェソ人・フィリピ人・コロサイ人への手紙 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望
5	第五回＝教科書『マルコによる福音書 私訳と解説』	宮平望	19	第十九回＝教科書『テサロニケ人・テモテ・テトス・フィレモンへの手紙 私訳と解説』	宮平望
6	第六回＝『マルコによる福音書 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望	20	第二十回＝『テサロニケ人・テモテ・テトス・フィレモンへの手紙 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望
7	第七回＝教科書『ルカによる福音書 私訳と解説』	宮平望	21	第二十一回＝教科書『ヘブライ人への手紙 私訳と解説』	宮平望
8	第八回＝『ルカによる福音書 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望	22	第二十二回＝『ヘブライ人への手紙 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望
9	第九回＝教科書『ヨハネによる福音書 私訳と解説』	宮平望	23	第二十三回＝教科書『ヤコブ・ペトロ・ヨハネ・ユダの手紙 私訳と解説』	宮平望
10	第十回＝『ヨハネによる福音書 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望	24	第二十四回＝『ヤコブ・ペトロ・ヨハネ・ユダの手紙 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望
11	第十一回＝教科書『使徒言行録 私訳と解説』	宮平望	25	第二十五回＝教科書『ヨハネの黙示録 私訳と解説』	宮平望
12	第十二回＝『使徒言行録 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望	26	第二十六回＝『ヨハネの黙示録 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望
13	第十三回＝教科書『ローマ人への手紙 私訳と解説』	宮平望	27	第二十七回＝新約聖書の福音書についてのまとめ	宮平望
14	第十四回＝『ローマ人への手紙 私訳と解説』に基づく受講生の発表	宮平望	28	第二十八回＝新約聖書の書簡、預言書についてのまとめ	宮平望
【テキスト】					
上記の宮平望著「新約聖書 私訳と解説」シリーズ全十二巻(新教出版社, 2006-2015)を使用しますので、すべて入手して内容確認をしておくこと。					
【参考書・参考資料等】					
テキスト内の文献から、授業中適宜指示します。					
【事前・事後学習、時間等】					
テキストに基づいて毎回予習・復習をしておくこと。毎回100分程度。テキストやその文献などを手がかりに、概して偶数回に発表します。					
【課題の種類・内容】					
教科書・参考書・レポートの該当箇所のギリシャ語用語の意義を調べておくこと。発表時には教科書に基づいて、該当文書に特徴的な思想についてA4で五枚程度のレポートを概して偶数回に持参すること。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業中に該当箇所の解説を適宜行う。					
【成績評価方法・基準】					
演習に対する取り組み(演習への討論参加を約5割、発表を約5割)を総合的に判断して評価します。					
【履修上の注意】					
新約聖書ギリシャ語の基礎を習得しておくこと。適宜、 https://miyahiranozomuhome.wixsite.com/mysite (宮平望のホームページ)を参照すること。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	キリスト教思想論研究指導		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	宮平 望				
【講義の到達目標及びテーマ】					
主として古代のギリシャ・ローマ文化とその派生文化である欧米文化の影響下に形成されたキリスト教神学思想を多角的に考察します。また、文献の分析力を培います。					
【講義概要】					
21世紀の日本という文脈におけるキリスト教思想の可能性について研究します。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	第一回＝オリエンテーション、『責任を取り、意味を与える神』一章「人間らしさ」	宮平望	15	第十五回＝『苦難を担い、救いへ導く神』三章「三問一和論」	宮平望
2	第二回＝受講生の発表1	宮平望	16	第十六回＝受講生の発表8	宮平望
3	第三回＝『責任を取り、意味を与える神』二章「神と人間」	宮平望	17	第十七回＝『苦難を担い、救いへ導く神』四章「苦難」	宮平望
4	第四回＝受講生の発表2	宮平望	18	第十八回＝受講生の発表9	宮平望
5	第五回＝『責任を取り、意味を与える神』三章「普遍的思想」	宮平望	19	第十九回＝『苦難を担い、救いへ導く神』五章「666」	宮平望
6	第六回＝受講生の発表3	宮平望	20	第二十回＝受講生の発表10	宮平望
7	第七回＝『責任を取り、意味を与える神』四章「回心」	宮平望	21	第二十一回＝『戦争を鎮め、平和を築く神』一章「状況倫理」	宮平望
8	第八回＝受講生の発表4	宮平望	22	第二十二回＝受講生の発表11	宮平望
9	第九回＝『責任を取り、意味を与える神』五章「救済」	宮平望	23	第二十三回＝『戦争を鎮め、平和を築く神』二章「共同体思想」	宮平望
10	第十回＝受講生の発表5	宮平望	24	第二十四回＝受講生の発表12	宮平望
11	第十一回＝『苦難を担い、救いへ導く神』一章「『する』と『なる』」	宮平望	25	第二十五回＝『戦争を鎮め、平和を築く神』三章「大和と平和」	宮平望
12	第十二回＝受講生の発表6	宮平望	26	第二十六回＝受講生の発表13	宮平望
13	第十三回＝『苦難を担い、救いへ導く神』二章「教育」	宮平望	27	第二十七回＝『戦争を鎮め、平和を築く神』四章「基礎共同体」五章「キリシタン思想」	宮平望
14	第十四回＝受講生の発表7	宮平望	28	第二十八回＝受講生の発表14	宮平望
【テキスト】					
宮平望『責任を取り、意味を与える神 21世紀日本のキリスト教1』(一麦出版社, 2000)、宮平望『苦難を担い、救いへ導く神 21世紀日本のキリスト教2』(一麦出版社, 2003)、宮平望『戦争を鎮め、平和を築く神 21世紀日本のキリスト教3』(一麦出版社, 2005)。					
【参考書・参考資料等】					
テキスト内の文献表から、授業中適宜指示します。					
【事前・事後学習、時間等】					
テキストに基づいて毎回予習・復習をしておいてください。100分程度。テキストやその文献などを手がかりに興味のある事柄を各自で調べ、偶数回に毎回A4で五枚程度のレポートを提出・発表します。					
【課題の種類・内容】					
教科書・参考書・レポートの該当箇所の用語の読み方や意義を調べておくこと。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業中に該当箇所の解説を適宜行う。					
【成績評価方法・基準】					
授業に対する取り組み(討論参加を約5割、発表を約5割)を総合的に判断して評価します。					
【履修上の注意】					
キリスト教の思想的意義に対する自分なりの見解を明確にしておく必要があります。適宜、 https://miyahiranozomuhome.wixsite.com/mysite (宮平望のホームルーム)を参照すること。					

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	国際文化特別講義	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	宮平 望			
【講義の到達目標及びテーマ】				
主として古代のギリシャ・ローマ文化とその派生文化である欧米文化の影響下に形成されたキリスト教神学思想の博士論文三点を比較文化的に考察します。また、文献の比較解釈力を培います。				
【講義概要】				
21世紀の世界という文脈におけるキリスト教思想の可能性について研究します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際文化研究における基礎的概念の整理 オリエンテーション			
2	国際文化研究における基礎的概念の応用 『神の和の神学へ向けて』第一章 テルトウリアヌス			
3	国際文化研究と周辺領域の関係 『神の和の神学へ向けて』第二章 アウグスティヌス			
4	国際文化研究における歴史的背景と意義 『神の和の神学へ向けて』第三章 バルト			
5	国際文化研究における国内の動向 『神の和の神学へ向けて』第四章 神の和と風土			
6	国際文化研究における新たな研究法 『神の和の神学へ向けて』第五章 神の和と神学			
7	国際文化研究における最新の研究事例 『神の和の神学へ向けて』第六章 神の和と聖書			
8	国際文化研究における成果と課題 『現代日本の「宣教の神学」研究』第二部第三章「現代世界のキリスト教」			
9	国際文化研究における研究事例の批判的検討 『現代日本の「宣教の神学」研究』第三部はじめに「文脈化の神学」			
10	国際文化研究における研究事例の建設的検討 『現代日本の「宣教の神学」研究』第三部第一章「宣教の神学」			
11	国際文化研究における将来像 『現代日本の「宣教の神学」研究』第三部第二章「日本人の自己アイデンティティ」			
12	国際文化研究における 今後の課題 『現代日本の「宣教の神学」研究』第三部第三章「ポストモダンの宣教」			
13	国際文化研究における海外の動向 A Third Culture Kid Theology: Chapter 12 MIYAHIRA's Theology of Betweenness			
14	まとめ			
【テキスト】				
宮平望『神の和の神学へ向けて 三位一体から三間一和の神論へ』（新教出版社、2017）、松田和憲『現代日本の「宣教の神学」研究 宣教の神学 パラダイム転換を目指して』（関東学院大学出版会、2010）、Christian James Triebel, A Third Culture Kid Theology: Constructing Trinity, Christ, and Believers' Identity in Liminality in dialogue with Nozomu Miyahira, Emil Brunner, and Thomas F. Torrance, (Doctoral Thesis: Doctor of Philosophy, King's College, University of London, 2016)を使用しますので、すべて入手しておくこと。				
【参考書・参考資料等】				
テキスト内の文献表から、授業中適宜指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストに基づいて毎回予習・復習をしておくこと。100分程度。テキストやその文献などを手がかりに興味のある事柄を各自で調べ、毎回A4で五枚程度のレポートを提出・発表します。				
【課題の種類・内容】				
教科書・参考書・レポートの該当箇所の用語の読み方や意義を調べておくこと。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に該当箇所の解説を適宜行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業に対する取り組み（討論参加を約5割、発表を約5割）を総合的に判断して評価します。				
【履修上の注意】				
キリスト教の思想的意義に対する自分なりの見解を明確にしておく必要があります。適宜、 https://miyahiranozomuhome.wixsite.com/mysite （宮平望のホームルーム）を参照すること。				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	古代キリスト教文化論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	西脇 純			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>講義テーマ: 古代キリスト教の礼拝文化</p> <p>本特殊講義では、古代キリスト教の礼拝文化に焦点があてられる。古代教会の礼拝史(典礼史)の基礎知識を学ぶとともに、古代教会の礼拝式文(典礼文)や賛歌(聖歌)のテキスト、あるいは礼拝における所作やシンボリズムの検討を通して、受講生の学際的な視野を広げることを目的とする(国際文化研究科ディプロマポリシーならびにカリキュラムポリシーを参照)。</p>				
【講義概要】				
<p>ユダヤ教を母胎に発祥したキリスト教は、ヘレニズム世界のなかでさまざまな文化と出会い、対峙と対話を通してそれらを吸収しつつ独自の宗教文化を生み出していった。わけても教義の形成期には礼拝式文(典礼文)や賛歌(聖歌)といった礼拝文化が教義伝承の担い手となった。たとえば古代教会において受洗前の主日礼拝のなかで行われた「信条授与 traditio symboli」と「信条返還 redditio symboli」(信条の暗唱)の儀式などは、教義と礼拝の緊密な関係を物語る好例といえる。本講義では、古代西方教会のさまざまな礼拝文化に影響を与えた教義、とりわけキリスト論の軌跡を辿りつつ、古代キリスト教における礼拝文化の諸相に接近してみたい。「古代キリスト教文化論特殊講義 I」は、主として主日礼拝(聖餐式)、入信式、復活祭圏の礼拝に焦点をあてることにしよう。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	はじめに			
2	ユダヤ教イエス派の誕生			
3	ユダヤ教からの乖離			
4	古代教会の成立と礼拝神学			
5	主日礼拝の歴史			
6	主日礼拝の礼拝式文			
7	入信式の歴史			
8	入信式の礼拝式文			
9	復活祭の歴史			
10	四旬節と洗礼の準備期間			
11	復活祭の礼拝式文			
12	復活賛歌「Exsultet」			
13	復活賛歌「Hic est dies verus Dei」			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
<p>H. Becker, R. Kaczynski (Hg.), Liturgie und Dichtung. Ein interdisziplinäres Kompendium. 2 Bde., St. Ottilien 1983.</p> <p>H. B. Meyer, H. Auf der Maur u. a. (Hg.), Gottesdienst der Kirche. Handbuch der Liturgiewissenschaft. Teil 4 (Eucharistie [1989]), Teil 5 (Feiern im Rhythmus de Zeit I [1983]), Teil 7.1. (Sakramentliche Feiern I [1989]), Teil 7.2. (Sakramentliche Feiern I/2 [1992]), Regensburg 1983-1992.</p> <p>A. Stock, Poetische Dogmatik. Christologie. 4 Bde., Paderborn u.a. 1995-2001.</p> <p>K. S. Frank, Lehrbuch der Geschichte der Alten Kirche, Paderborn u.a. 1996.</p> <p>S. Döpp, W. Geerlings (Hg.), Lexikon der antiken christlichen Literatur, Freiburg-Base-Wien 1998.</p> <p>J. Bärsch, B. Kranemann (Hg.), Geschichte der Liturgie in den Kirchen des Westens. 2 Bde., Münster 2018.</p> <p>J.A.ユングマン著、石井裕裕訳『古代キリスト教典礼史』(上智大学中世思想研究所監修、平凡社、1997年)</p> <p>ほか</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>本科目は講義科目である。授業各回に以下のように、2コマ相当の自主学習が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、moodle にアップロードされている授業資料を熟読し、内容の理解に努めたうえで授業に臨むこと(5割)。 ・事後学習として、毎回の授業後に出される小レポート課題に取り組むこと(5割)。 				
【課題の種類・内容】				
毎回の授業後に当該授業の内容に関わる小レポートの提出が求められる。加えて、定期試験として行われる最終レポートの提出も必要となる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
<p>授業参加度(70%)、最終レポート(30%)</p> <p>このクラスでは、①授業に出席し、②授業内容を学び、③小レポート課題を期限内に提出すると、該当回の授業に参加したと認められる。①②③のいずれを欠いても「授業参加」とは認められない。</p> <p>授業参加度における評価は、受講態度と小レポート課題の内容から判断する。また、5回以上の欠席は授業参加度における大幅減点につながる。</p>				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	古代キリスト教文化論特殊講義 II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	西脇 純			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>講義テーマ: 古代キリスト教の礼拝文化</p> <p>本特殊講義では、古代キリスト教の礼拝文化に焦点があてられる。古代教会の礼拝史(典礼史)の基礎知識を学ぶとともに、古代教会の礼拝式文(典礼文)や賛歌(聖歌)のテキスト、あるいは礼拝における所作やシンボリズムの検討を通して、受講生の学際的な視野を広げることを目的とする(国際文化研究科ディプロマポリシーならびにカリキュラムポリシーを参照)。</p>				
【講義概要】				
<p>ユダヤ教を母胎に発祥したキリスト教は、ヘレニズム世界のなかでさまざまな文化と出会い、対峙と対話を通してそれらを吸収しつつ独自の宗教文化を生み出していった。わけても教義の形成期には礼拝式文(典礼文)や賛歌(聖歌)といった礼拝文化が教義伝承の担い手となった。たとえば古代教会において受洗前の主日礼拝のなかで行われた「信条授与 traditio symboli」と「信条返還 redditio symboli」(信条の暗唱)の儀式などは、教義と礼拝の緊密な関係を物語る好例といえる。本講義では、古代西方教会のさまざまな礼拝文化に影響を与えた教義、とりわけキリスト論の軌跡を辿りつつ、古代キリスト教における礼拝文化の諸相に接近してみたい。「古代キリスト教文化論特殊講義 II」は、主として「病者の塗油」と呼ばれる儀式と、降誕祭圏の礼拝思想に焦点をあてることにしよう。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	はじめに			
2	病人の手当をするイエス			
3	古代教会における「病者の塗油」(1)			
4	古代教会における「病者の塗油」(2)			
5	古代教会における「病者の塗油」(3)			
6	古代キリスト論の展開: アレイオス論争とその波紋(1)			
7	古代キリスト論の展開: アレイオス論争とその波紋(2)			
8	古代キリスト論の展開: アレイオス論争とその波紋(3)			
9	誕生祭(降誕祭)と顕現祭(公現祭)のおこり			
10	降誕祭と受肉(incarnatio)思想			
11	降誕祭と聖なる交換(sacrum commercium)の思想			
12	「神の母」の称号をめぐる(1)			
13	「神の母」の称号をめぐる(2)			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
<p>H. Becker, R. Kaczynski (Hg.), Liturgie und Dichtung. Ein interdisziplinäres Kompendium. 2 Bde., St. Ottilien 1983.</p> <p>H. B. Meyer, H. Auf der Maur u. a. (Hg.), Gottesdienst der Kirche. Handbuch der Liturgiewissenschaft. Teil 4 (Eucharistie [1989]), Teil 5 (Feiern im Rhythmus de Zeit I [1983]), Teil 7.1. (Sakramentliche Feiern I [1989]), Teil 7.2. (Sakramentliche Feiern I/2 [1992]), Regensburg 1983-1992.</p> <p>A. Stock, Poetische Dogmatik. Christologie. 4 Bde., Paderborn u.a. 1995-2001.</p> <p>K. S. Frank, Lehrbuch der Geschichte der Alten Kirche, Paderborn u.a. 1996.</p> <p>S. Döpp, W. Geerlings (Hg.), Lexikon der antiken christlichen Literatur, Freiburg-Base-Wien 1998.</p> <p>J. Bärsch, B. Kranemann (Hg.), Geschichte der Liturgie in den Kirchen des Westens. 2 Bde., Münster 2018.</p> <p>J.A. ユングマン著, 石井祥裕訳『古代キリスト教典礼史』(上智大学中世思想研究所監修, 平凡社, 1997年)</p> <p>ほか</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>本科目は講義科目である。授業各回に以下のように、2コマ相当の自主学習が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、moodle にアップロードされている授業資料を熟読し、内容の理解に努めたうえで授業に臨むこと(5割)。 ・事後学習として、毎回の授業後に出される小レポート課題に取り組むこと(5割)。 				
【課題の種類・内容】				
毎回の授業後に当該授業の内容に関わる小レポートの提出が求められる。加えて、定期試験として行われる最終レポートの提出も必要となる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
<p>授業参加度(70%)、最終レポート(30%)</p> <p>このクラスでは、①授業に出席し、②授業内容を学び、③小レポート課題を期限内に提出すると、該当回の授業に参加したと認められる。①②③のいずれを欠いても「授業参加」とは認められない。</p> <p>授業参加度における評価は、受講態度と小レポート課題の内容から判断する。また、5回以上の欠席は授業参加度における大幅減点につながる。</p>				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	アメリカ社会文化論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		前期		
担当教員名	大原関一浩			
【講義の到達目標及びテーマ】				
授業テーマ: 食を通じてアメリカ社会文化を考える 到達目標: ・近代欧米社会の成立と食の変容について理解する				
【講義概要】				
この講義では、「食」のテーマを通じてアメリカの社会文化の理解を深めます。まず、近代欧米社会の成立と食の変化のポイントをおさえてから、現代アメリカにおける食に関する諸問題を学びます。次に、食とジェンダーの関係を、料理・メディア・身体などの観点から考察します。授業は一方的な知識の伝達ではなく、双方向的な議論が中心になります。具体的には、指定されたリーディングにもとづき、学生同士/学生と教員間で討論をします。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション: 授業の方法と説明			
2	近代世界の成立と食			
3	工業化による食の変容			
4	食とアイデンティティ			
5	栄養と健康			
6	ブランド化とマーケティング			
7	工業化される食			
8	食と社会変化			
9	食をめぐる社会			
10	料理とジェンダー			
11	メディアのなかの食とジェンダー			
12	食べものと女性の身体			
13	事例研究: アリス・ウォータース			
14	まとめ			
【テキスト】				
エイミー・グプティルほか『食の社会学: パラドクスから考える』(NTT出版、2016年)ISBN: 978-4757143395 ※可能であれば書籍部で古書で入手してもらおうが、できない場合は初回の授業で入手方法を説明する				
【参考書・参考資料等】				
なし				
【事前・事後学習、時間等】				
・事前に指定したページを講義前に必ず読んでくること(1.5時間程度) ・前回の講義内容について必ず復習して授業に臨むこと(1.5時間程度)				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
・Moodleのフィードバック機能の利用、またはレポートへの書き込み				
【成績評価方法・基準】				
・授業中の参加 30% ・発表 20% ・ブックレビュー 50%				
【履修上の注意】				
スケジュールに多少変更の可能性があるので、初回の授業には必ず出席すること				

2022年度 大学院シラバス

国際文化研究科 国際文化専攻

講義科目名	近現代中国歴史文化論特殊講義 I	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		後期		
担当教員名	梅村 卓			
【講義の到達目標及びテーマ】				
近現代の中国や東アジアの歴史に関する重要な先行研究や中国語史料を購読し、議論する。これを通して当該のテーマに関する最新の研究動向を理解するとともに、史料を読解する基礎力を養う。				
【講義概要】				
先行研究については、今年度とはくにインテリジェンス、日中関係、中国共産党、満洲・東北地域、引揚げ、戦争とプロパガンダをテーマとしてとりあげる。毎回の授業ではこれらのテーマに関する先行研究を購読し、報告や議論を通じて批判的に検討する。史料講読では新聞や雑誌、指示や通知など、同時代の史料を扱う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション 顔合わせ			
2	インテリジェンスに関する先行研究の購読と議論			
3	史料講読1 メディア史			
4	日中関係に関する先行研究の購読と議論: 日中戦争			
5	史料講読2 傀儡政権			
6	日中関係に関する先行研究の購読と議論: 傀儡政権			
7	史料講読3 共産党史			
8	日中関係に関する先行研究の購読と議論: 日本の在華活動			
9	史料講読4 東北史			
10	満洲・東北地域史に関する先行研究の購読と議論			
11	史料講読5 日中戦争			
12	引揚げに関する先行研究の購読と議論			
13	中国共産党に関する先行研究の購読と議論			
14	戦争とプロパガンダに関する先行研究の購読と議論			
【テキスト】				
随時配布する				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
【課題の種類・内容】				
毎回の授業での報告や議論				
【課題に対するフィードバックの方法】				
報告や議論に対して適時コメントする				
【成績評価方法・基準】				
授業での報告・取組み(60点)、議論への参加度(40点)				
【履修上の注意】				

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092-823-3368

FAX 092-823-3348

e-mail gra-jimu@seinan-gu.ac.jp

